



『ちよつといい話』を手にしてくださいました皆さんへ

『ちよつといい話』は、皆さんが日々の生活の中で見たり聞いたり体験した、心が温かくなる出来事を取りまとめた小冊子です。

『ちよつといい話』の募集を始めて11年目となりました。今年度は、1, 167人の方からご応募いただきました。これまでに、延べ9, 354人の方にご応募いただいております。ページの都合上、すべてのお話を紹介することはできませんでしたが、お話をお寄せいただきました皆様に深く感謝します。

毎日の生活の中で、皆さんが感じた嬉しい気持ちや、感心したり、勇気をもったりした出来事など、自分の心にしまっておくだけではもったいないような心の温かくなる話のおすそわけとなっています。

この冊子を手にしていただいたあなたにも、毎日の生活の中で、人と人とのつながりを思い返すきっかけになれば幸いです。

# も く じ



◆ 一般編	◆ 中学校編	◆ 小学校編
………	………	………
85	43	1

【表紙のイラスト】

釜戸小学校5年

石川 葉菜さん

# 小学校編



☆ あいさつでニコニコ笑顔

☆ 家族っていいな

☆ 友だちっていいな

☆ クラブ・習い事

☆ 地域の人とのつながり

☆ うれしい出来事

.....  
1

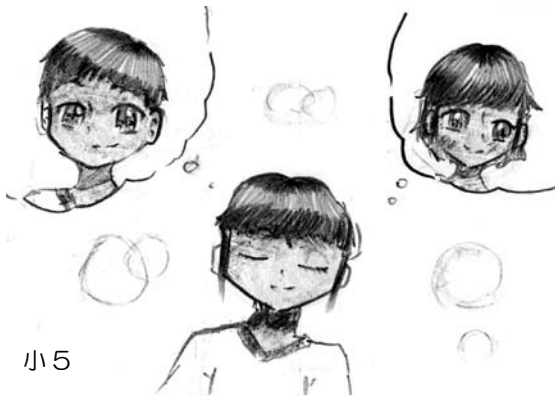
.....  
5

.....  
15

.....  
23

.....  
29

.....  
33



小5

## おはようドリル練習

▽ぼくの分団は、毎朝、たがいに「おはようございます」と言います。

毎朝、その一言で気持ちがよくなります。また、地域の人にも、皆であいさつをする。「おはよう。学校がんばってね」と返してくれます。なので「今日も学校がんばろう」という気持ちになります。これからあいさつを続けて、気持ちがいい毎日になりたいです。

小6



小6

▽ぼくが、友だちとさんぽをしていた時に、小さい子たちとお母さんとすれちがいました。その時、小さい子たちが「こんにちは」とあいさしてくれました。それに答えるようにぼくたちも「こんにちは」とあいさつをしました。小さい子たちのあいさつが、とても気持ちの良いあいさつだと思いました。ぼくも、大きな声で元気よくあいさつを積極的にしたいと思います。

小6

▽あさ、ともだちやおにいさん、おねえさんにあつたとき「〇〇くん、おはよう」となまえをよんでからあいさつをしてくれます。なまえをよんでもらえると、ぼくのためにあいさつをしてくれているみたいにおもえて、とてもうれいきもちになります。ぼくも、おともだちにあつたときは、なまえをよんであいさつをしたいとおもいました。

小1

▽私は、分団の副班長です。みんなを後ろから見えています。いつも、地域の人が見守ってくれています。雨の日でも見守ってくれている人がいると安心です。あいさつもしてくれます。「おはよう」だけでなく「いつてらっしゃい」とも言ってくれます。その時、いつも心が温かくなります。でも、あいさつをしていない人や、小さな声しか出していない人を見るととても悲しくなります。なので、あいさつを自分からしたいと思っています。ニュースなどで小学生の列にトラックがつつこんで来たりするのを見ると「私たちの分団も…」とこわくなります。だけど、あいさつをしてくれたり、後ろから見守ってくれる地域の人、学校の先生がいると、安心できます。私も、こんなふうにも思ってもらえる優しい大人になりたいと思います。

小5



小5

▽いつも、ぼくがげんきよくあいさつをすると、みんなげんきになるっていつてくれるよ。小1

▽ちよつとおくれて学校に入る時、ちよつと緊張するけれど、教室に入ってみんなにあいさつをしたら、あいさつを返してくれるのでうれいす。大きな声であいさつをすると気持ちがいいので続けていききたいです。

小6

▽私の学校では「あいさつ運動」というあいさつをたくさんしようというキャンペーンのようなものがあります。ある時、ちがう学年の女の子が「〇〇さん、おはようございます」と立ち止まって気持ちのいいあいさつをしてくれました。私は「この子はきつとどんな子にもやさしく思いやりのある子なんだろうな」と思いました。出会った人に自分からあいさつをすると、相手もこんないい気持ちになれて、あいさつの良さがわかってもらえると思うとうれしいし、がんばってよびかけてきたあいさつを相手の気持ちを考えてしてくれる人がいて、とつてもうれしいなと思えました。私も思いやりを持っていろんな人にあいさつをして、相手が「うれしいな」と思ってもらえるようにしたいです。

▽登校中に、同じ分団のRさんが、地いきの人に、大きな声ではっきりと聞こえやすくあいさつをしていました。わたしは、あまり地いきの人に、大きな声ではっきり聞こえやすくあいさつをしたことがなかったけれど、Rさんのおかげで、あいさつを大きな声でする勇気をもらいました。Rさんにはかんしゃをしているので、今度は、わたしがRさんになにか勇気を出してあげられるような行動をしたり、自信がつくような言葉をかけてあげられるようにがんばりたいです。

小4



小4

小5



▽登校中に、地域のおばさんが「おはよう」と言ってくれました。私は、そのおばさんのことを知りませんでした。そのおばさんも私のことを知らないはずなのに「学校ががんばって行ってね」と私を心配してくれて、えがおであいさつをしてくれました。私も「おはようございます」とあいさつを返しました。すると、おばさんは、にっこり笑って歩いて行きました。私は、とてもうれしくなり、知らない人でも気持ちいいあいさつをしようと思いました。

小5

▽ある日、ぼくは、登校中にころんでしまいました。足にすりきずができていたなと思いがながら学校へ行くと友だちが、えがおで「おはよう」と言ってくれました。ぼくは、その言葉とえがおで、へこんでいた気持ちがいっつきにふきとび元気が出ました。ぼくも元気な声であいさつをしてまわりのみんなを元気にしたいと思いました。

小3

▽ぼくが、しょうがつこうへいくときに、まいにち「おはよう！」とげんきにあいさつをしてくれる中学校の先生がいます。ぼくもちよつとはずかしいけど「おはよう！」といいます。その先生は、ぼくのお母さんの中学校のときのたんの先生だったそうです。いまは、校長せんせいです。ぼくが、2年生になるときは、校長先生はやめてしまうそうです。げんきな「おはよう」をきけなくなるのはすこしさみしいなとおもいました。あとすこし、ぼくも、校長先生にまけないように「おはよう！」とげんきにいいたいです。

小1

## ★家族っていいな

▽私の母が、交通事故にあつて、首をむち打ちしてしまいました。首が左右に動かせないほどいたがつていました。家事はもちろん、犬の世話も難しいほどでした。母を支えようと私と父は、手伝えそうなことはいっしょうけんめいやりました。私が学校で、父が休みの時は、父が家事を手伝ったり、買い物もいっしょに行ったりなど、母を大事に思っている人だなと改めて思いました。今でも「デート行ってくるね!」と言って楽しそうだなと思いました。

小6

▽ぼくのお父さんは、大きかでしごとをしています。いつもは大きかにおいて、お休みの日しかあえません。でも、コロナがはやってからは、おうちでしごとをすることがふえました。いろんなところに出かけたりはできなくなってしまったけれど、へいじつもお父さんとごはんをたべたり、おふろに入ることができてうれしいです。

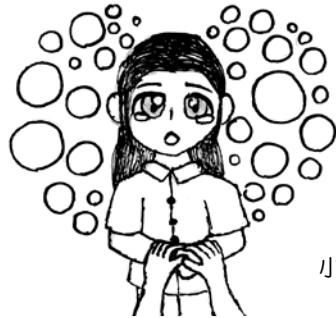
小1

▽わたしのお父さんは、近所の道のそうじをしています。たのまれたことではありません。暑くても雨がふっても、自分から進んでコツコツ続けています。お父さんは、何も言わないけれど、わたしは、すごいなと思います。お父さん、ありがとう。

小4

▽人生で初めて月食が見られるチャンスがあった日のことです。学校やテレビで「月食が見られる」という話を聞いた時、その日の夜がとても楽しみでした。でも、雲や山のせいで月食が見られませんでした。私はとても残念な気持ちになって泣いてしまいました。父は「何で小6がそんな小さいことで泣くんか」と言って私をしかったです。その後、私は「何でわたしのせいで父もおこるんだろう」と思い、父をおこらせた「ばつ」として、自分のうでを強くにぎりました。その私の行動を見た父は「君が自分をきずつける君をつくった私もいたいからやめろ」と言って私を止めてくれました。その時、私は、自殺など自分をきずつける行いをしちやいけない理由と「親」という存在の大切さを学びました。

### 小6



小6

▽この前、お母さんに、わたしがお母さんのおなかの中にいる時の写しんをみせてもらいました。何枚かの写しんにおなかの前でハートを作っているのを見て、わたしが生まれる前も大切にしてくれたのかなと思ひ、うれしなみだが出るくらい心があたたかくなりました。

### 小3

▽ぼくは、よるママとねています。いっしょにねるととてもあつたかいし、あんしんします。ぼくはママがだいすきです。

### 小2

▽いつもいつもお母さんにあれやこれやとうるさくいわれる。いつもいやいややっていてほんとにいやだった。でも、お母さんのいったことはじぶんのためになっていた。お母さんってほんとすごいっておもった。

小1

▽ぼくは、ハンバーグが大好きです。でも、アレルギーがあるから、スーパーで売っているハンバーグを食べることができません。なので、お母さんが、ぼくの食べられるハンバーグを作ってくれます。ぼくは、うれしくていつもたくさん食べてしまいます。お母さんありがとう。

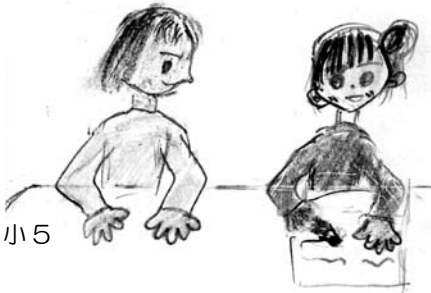
小4

▽小学4年生の夏休みがおわろうとしていた時、わたしはまだ、しゅくだいがのこっていました。よるの10時すぎにしゅくだいをやっているとお母さんが起きてきて「いつしよに起きていてあげるからがんばろ！」と言ってくれました。わたしは、この時、心の中で「愛ってこんなに温かいものなんだ」と思い、とてもうれしくなりました。

小5

▽お父さんとお母さんが、家で夏まつりをしてくれました。コロナで今年も夏まつりがないので、家でのまつりが楽しかったです。やってくれたお父さんお母さんにかんしゃです。

小3



小5

▽わたしのおにいちゃんは、いつもしゅくだいをなかなかはじめません。でも、わたしが、お兄ちゃんとあそびたくてぐずったときに、わたしのためにはやくはじめてくれたのでうれしかったです。お兄ちゃんがとても大すきなので、いっしょにあそぶとたのしいです。

小 1

▽さいきん、わたしは、3つ上のお兄ちゃんとけんかをする事が多くなってきました。そんな時、お父さんが、わたしが小さかったころの様子をとったDVDを見せてくれました。わたしがころんだり、こまっていると、お兄ちゃんがよってきて、体をささえてくれたり、やさしくしてくれているのがうつつていました。それを見て、お兄ちゃんは、やさしいなあと思いました。けんかをする事もあるけれど、なかよくしていきたいなと思いました。

小 3

▽お母さんが、世中をいためていた時に、お兄ちゃんが何も言われずに自分からせんたく物をしてまったり、お風呂そうじをしているすがたを見て、さすがお兄ちゃんだなと思いました。もし、次、このようなことがあったら、わたしもお兄ちゃんのようにお手伝をしたいです。

小 5

▽ぼくのお姉ちゃんは、新しいベットを買ってもらいました。ぼくが「いっしょにねよ」って言うとう「いいよ」と言っていていっしょにねさせてくれます。ときどきおとまりしているみたいにかんじます。

小 5

▽ぼくのお母さんのおなかのなかには、赤ちゃんがいます。「おかあさんになにかあったらいけないから」と自分からお手伝いをする弟がすごいなと思いました。お母さんは、しゃがんだり、高いところにある物を取るのがむずかしいので、弟がおふろそうじや、高いところにある物を、ふみ台を使って取ってあげていて、自分がやりたいことがあっても「お手伝いをする」と言っていて笑顔でしています。1年生くらいの時に、お母さんのおなかの中に赤ちゃんがいきました。でも、おなかの中で亡くなってしまいました。こんなことにならないように、家族みんなで支え合って、元気な赤ちゃんをむかえたいです。

## 小5

▽私のお姉ちゃんが赤ちゃんをうみました。とてもうれしいです。わたしとお姉ちゃんは15才はなれています。なので、わたしがうまれたときもめんどろをみてくれたそうです。きよ年、お姉ちゃんはけっこんしました。そのときはさみしかったです。でも、今年、赤ちゃんがうまれるときいてうれしくなりました。おなかに赤ちゃんがいるときは、いろいろたいへんそうでした。でも、はやくわたしは、赤ちゃんを見たかったです。7月に赤ちゃんがうれました。コロナのせいでおみまいにはいきませんでした。なので、いえにかえってきたとき、お母さんのあとにだっこさせてもらいました。小さいのに力がいっぱいびっくりしました。わたしにとって弟じやなくてお姉ちゃんの子どもだけど、赤ちゃんにあえてとてもうれしかったです。

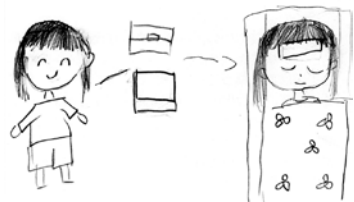
## 小2



▽2ヶ月前、わたしは、ねつを出しました。その時、妹がお手紙をくれました。お手紙には、わたしの元気な顔の絵と、箱の中にたくさんのお花の※アクアビーズがありました。それは、妹がいないいた時、わたしがあげたものでした。わたしは、それをもらって、こんど妹がねつを出した時は、お手紙とお花のアクアビーズをかえしてあげたいと思いました。

小3

※水をかけるとくっつくビーズ



小3

▽この前、家で飼っていたメダカが死んでしまいました。わたしは、悲しくて泣きました。でも、妹は泣くのをこらえていました。そして、わたしが見ていない時、お母さんの前で泣いていました。後で、お母さんに「なんでお母さんの前で泣いていたの」と聞くと「お姉ちゃんの前で泣いたら、お姉ちゃん、もつと悲しくなっちゃうでしょ」と言っていたそうです。妹がそんなにわたしのことを考えてくれていたんだと初めて知りました。妹は、まだ小さいのにすごいやさしいなと思いました。わたしも、妹のように相手の気持ちを考えて行動したいです。

小5

▽わたしの家には98才のおばあちゃんがあります。おばあちゃんは、私の名前も覚えていませんが、いつもニコニコと笑顔でいます。おばあちゃんとねる前に手をつないであげます。おばあちゃん「ありがとうね」と言ってくれます。100才まで元気で長生きしてね。

小6



▽ぼくのおばあちゃんは、いつもぼくのことをほめてくれます。ぼくは、漢字がにがてだったけれど、漢字テストで一番良い点数をとった時に、おばあちゃんに見てもらいました。おばあちゃんは「最高だね。やればできるね」とほめてくれました。運動、勉強をがんばっていると、たくさんほめてくれます。これからもがんばりたいです。

### 小6



小6

▽おばあちゃんが、びょういんをたいいんして家に帰ってきた時、会うのがひさしぶりだったので、わたしは、泣いてしまいました。この日から、おばあちゃんは、わたしに親切にしてくれたり、しんぱいしてくれるようになりました。わたしが学校から帰ってくると、お母さんが「おばあちゃんがしんぱいしていたよ」と言っていました。わたしは、しんぱいしてくれたと聞いてうれしくなりました。人を大切にしたり、しんぱいしてくれることは、大切だと思いました。小3

▽おじいちゃんが、なんかいもびょういんにいったけど、かえってきたとき、ねつがでると、こおりまくらをかえたりしたので、おじいちゃんはいれしがっていました。おじいちゃんはおんごくへいったけど、こころにてをあてたら、おじいちゃんのこえがきこえてきます。おじいちゃんだいき。

### 小1



小1

▽ぼくのおじいちゃんは、車にひかれました。ひいた人はそんなにスピードを出していなかったから大丈夫でした。そして、退院後は、おばあちゃんが、おじいちゃんのめんどうをみてくれました。おむつをかえたり、自分が暑くても、おじいちゃんは寒いから、クーラーをつけずにがんばってくれました。そして、ぼくは、けい老の日に、おじいちゃんとおばあちゃんに、肩もみをしてあげました。おじいちゃんには「生きていてくれてありがとう」おばちゃんには「いつもおじいちゃんのめんどうをみてくれてありがとう」と感謝をして、けい老の日は終わりました。これからも感謝を伝えようと思います。

小5

▽1年生の3学期にコロナウイルス感染拡大で、学校が休みになりました。他県にいるおじいちゃん、おばあちゃんに会えなくなりました。お正月も帰省ができなくて、1年以上会っていません。会えなくなったら、電話をしたり、手紙を書くことが増えました。文通をするようになって、手紙が来るのが楽しみの一つになりました。とどいた手紙は箱いっぱいになって、私の宝物が増えました。コロナは、まだ安心できないので感染予防をしっかりと、1日も早くしゅうそくすることをねがっています。

小3



小3

▽ぼくは、もう少しで誕生日です。はなれた所に住むおばあちゃんが誕生日のお祝いにお金をくれました。お母さんが、おばあちゃんの病院のつきそいに行った時にくれたそうです。ぼくは、その夜、お礼の電話をしました。おばあちゃんは「そのお金を好きなものに使っていいよ」と言ってくれました。ぼくは、とてもうれしかったです。今までは、もらうばかりで、おばあちゃんにぼくからプレゼントをあげたことはなかったけれど、今度のおばあちゃんの誕生日には、好きなものを買ってもらえるように、今から家のお手伝いをしてお金をためてプレゼントや肩たたきをしてあげたいと思います。

小6



小6

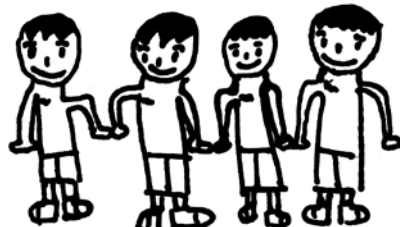
▽今年の5月、私に初めてのいとこができました。私は、その時、初めて思いました。一つの命が産まれるとこんなにもうれしいことを。前から、命が大切なことはわかって知っていました。だけど、産まれることが、どれだけすごくてうれしいかを、その時初めて知りました。生まれた赤ちゃんの顔を見てわかった、命を大切にしないといけないことを。そのいとこが産まれなかったら、きっとそのことを知れなかったと思います。だから、私は、そのいとこの子に心から感謝したいです。

小5

## ★友だちっぺいな

▽ぼくには、3才からなかよしの親友がいる。なかがよすぎて、けんかもたくさんする。小さい時は、きづかなかったけれど、親友は、みんなと話し方が少しちがう。大きくなって、友だちのことを「ゲームのやりすぎで、へんなしゃべり方をする」と言っている子がいて、ぼくの親友がなきそうな顔をしていた。だから、ぼくは「そんなことを言ったらだめだよ」と言った。後から、親友が「そうだよね」と言った。いつもわらっている親友が、なきそうな顔をしていたけれど、さつきは「ありがたい」と言ってくれた。ぼくは、とつてもうれしかった。何かわからなけれど、心がぼかぼかになった。

小3



小3 みんながよし

▽私は、学校の放送委員をしています。5年の時は、他の委員会に入っていて、今年、初めて入ったので、放送の仕方がわからないと、友だちが教えてくれます。お昼の放送の時には給食を持ってきてくれたり、放送した後に「上手だったよ」などとほめてくれたり、アドバイスをしてくれたので、うれしかったです。友だちにたくさん元気をもたらしているので、私は、全校にこれからもおもしろい話題やクイズをとどけられるようにがんばりたいです。

小6

▽ぼくが、学校から帰る前に、けがをしてしまったので、保健室へ行ってから帰ろうと思いましたが、「時間が経つちやっただかな」と思いながらげた箱へ行くと、一人の友だちが待っていてくれました。ぼくも「みんな帰っちゃっただろうな」と思っていたので、少しびっくりしました。その友だちは、一人でかわいいそうだからといっていっしょに帰ってくれました。とてもうれしい気持ちになりました。

小 6

▽ぼくは、かいきやくとびができません。なので、台上前転をやりようと思い、何回も練習しました。先生が来てくださって、やつとできた時、後ろにならんでずつと見てくれた仲間がはくしゅをしたり「すごい」と言ってくれました。やっぱり、せいこうして何か声をかけてくれるとすぐうれしい気持ちになるなあと思いました。

小 5

▽わたしが、ブランコにのつていたときに、ならんでいる子がいました。その子たちは、わたしより学年が下の子だったので「かわってあげるからね」と言ってくわってあげました。その子たちの中で、早いもん勝ちでブランコをとったのは男の子でした。その男の子は「かわってくれてありがとう」と言いました。これはふつうだと思うけど、わたしにとつては初めてのことでした。楽しかったです。

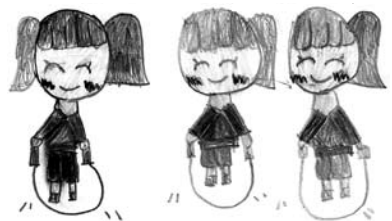
小 3



小 3

▽夏休みで家にはだれもいません。だからわたしは学童に行くことになりました。学童には私のなかのいい友だちが二人来ます。おべんきようをするとき、わからなかったりすると、やさしく教え合ったりします。いっしょに遊ぶときは、外でなわとびをしたり、中ではぬり絵をします。学童はとても楽しいです。これからも友だちをたくさん作ったり、その二人ともつとなかよくしたいです。

小3



小3

▽日本の小学校に初めて登校した日のことです。日本語が話せなかったわたしは、とても緊張していました。幼稚園の頃は話していた日本語を、フィリピンにいる間に忘れてしまったのです。ドキドキしているわたしのところに、クラスのみんながやって来て、友達になってくれたことに驚きました。そして、とてもハッピーな気持ちになって、わたしの緊張はなくなりました。女子全員がわたしと一緒に遊んでくれ、何か分からないことがあっても助けてくれました。クラスメイトはみんなとてもやさしくて、ドッジボールやその他いろんなことを教えてくれました。今は、だんだん言葉の意味が分かるようになり、ひらがなを読んだり書いたりもできるようになりました。わたしは、とってもやさしいクラスメイト全員に感謝しています。みんなと、ずっと友だちでいたいと思います。(原文英語)

小5

▽体育の時間にバレーボールをしました。全部のしあいに負けてしまって、とてもくやしかったけれど「ミスをなくせばかてるよ」と友だちがはげましてくれました。わたしにかったチームだけど、やさしくはげましてくれてうれしかったです。わたしも、もっとれんしゅうをして強くなりたいと思いました。そして、もし負けてしまった友だちがいたら、はげましてあげたいと思いました。

小3



小3

▽リレーで一番最初に走る時、早く走れず、仲間の人にバトンをわたすのが3位になってしまいました。結果は4位になって「最下位になったのは私のせいだ」と思いました。だけど、チームのみんなは、私のをせめずに「すごかったよ」「前より早く走っていたよ」「ぼくもバトンミスしちゃったから」と私をはげましてくれました。とっても気が楽になったし、うれしかったです。

小6

▽1年生の子に土岐小学校を案内しました。手をつないで、いっしょに学校を回りました。ぼくは、1年生の子にやさしくしようと考えていたので、ていねいにせつめいをしてあげました。1年生の子もすごくよろこんでくれました。それを見て、ぼくもうれしくなりました。これからはなかよくして、いっしょにあそぼうと思います。

小2

▽1年生のころから、分だんの中にわたしをいじめてくる子がいました。なので、朝、分だんで学校まで行くのがいやでした。親友にそうだとすると「先生に言いな」と言ってくれました。だけど、こわくて先生には言えませんでした。3年生になってやっと先生に言えました。先生が、その子にもういじめないように言ってくれました。すると、その子があやまってくれました。それからその子と楽しくすごせるようになりました。私は、ほっとしました。その子とは、どんな友だちになりました。これからもいろいろな人がいると思うけど、その人とも仲よしになりたいです。

小3

▽ぼくは、授業でこまり、学校に行きたくなくて、休んでいたことがありました。でも、いっしょに話をしたり、遊んだりする友だちの存在があったおかげで学校に行きたくなりました。今では休まず学校に行けています。5年生までは、遊ぶだけの友だちだと思っていたけれど、今は、ぼくを支えてくれる大切な友だちです。これからも友だちを大切にしていきたいです。

小6

▽きもだめし的时候こわかったけど、5年生のおにさんが、手をつないでくれてうれしかったです。

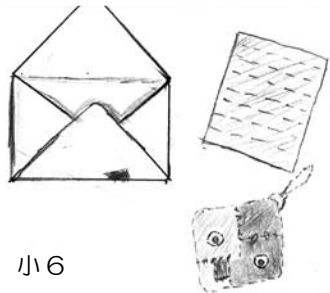
小1





▽私は学校の代表で、ある大会に出るようになりました。その大会の二日前、私の友だちから手紙と手作りのキーホルダーをもらいました。その時、すぐくうれしかったし、がんばろうという気持ちさがさらに高まりました。本番前、きんちようしている時に、手紙を読んだら「落ち着いてがんばって」と書いてありました。本番では、その言葉通り、落ち着いてできました。私も友だちのように誰かのことを心の底から応援できる心優しいすてきな人になりたいです。

小6

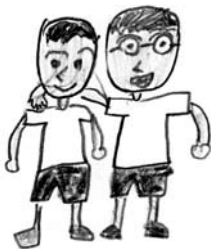


小6

▽わたしは、かさはらたんけんたいというグループに入っています。初めは、知っている子が誰もいませんでしたが、となりにすわっていた女の子が声をかけてくれました。その時、なぜかふっとおちつくことができました。その後、その子と友だちになることができました。わたしも、わたしから声をかけ、友だちをたくさんつくっていいなと思いました。

小4

▽ぼくは、最近、あらためていい友だちを持ったなと思いました。分団の人を待っている時に、ぼくと友だちがしゃべっていました。すると、先生が「友だちとぼくは仲がいいの」と聞きました。そしたら、友だちが「大親友です」とぼくのかたをたたいて言ってくれました。とてもうれしかったです。小6



小6

▽私は、算数が苦手です。なので、テストの点数は、いつも悪く、100点など夢の点数でした。いつも私は、みんなが話していることを理解しようと自学をしたりします。それでもわかることは少なく、私は「一人だけわかっていない。みんなからおくれている」そう感じながら、毎時間取り組んでいました。そんな時、となりの席のSさんや周りの人たちが「大丈夫、教えてあげようか」と言っただけでやさしくわかりやすく教えてくれました。そのおかげで100点を取ることができました。私は、教えてくれたみんなに感謝して、次は教える側になれるようにしたいです。

**小6**

▽わたしが、ようじ園の時、もち拾いをしに行きました。はじまって、大人がいっぱいいたので、私は0でした。それで、すごく悲しくなってきました。すると、男の子が自分のふくろからひとつくれました。男の子のふくろを見たら2こしか入っていませんでした。いっしょけんめい拾った大事な3こだったと思うのに、そのうちの1こをさしだしてくれた気もちがとてもうれしかったです。今でもわすれられないできごとです。

**小3**

▽わたしたちの学校に女の子の転校生が来ました。その子は、最初、日本語をなかなかしゃべることができませんでしたが、でも、9月に入ってたくさんの言葉を聞き、少しずついっしょにしゃべれるようになってきました。しゃべれるようになって本人もうれしそうに思われ、クラスの子どもいっしょにしゃべれて最高だと思います。もっとたくさん遊んで仲良くなりたいたいです。

**小5**

▽図工の時間で作品を作っている時に、いっしょけん命作品を作っている子がいました。その子は作るのにむちゆうでした。それを見て「その作品とつても上手だね」と言ったら、その子がうれしそうに「ありがとう」と言ってくれてこっちもうれしくなりました。「ありがとう」と言われるとこっちもうれしくなるので、わたしもたくさんの人に「ありがとう」とたくさん言えるようになりたいです。

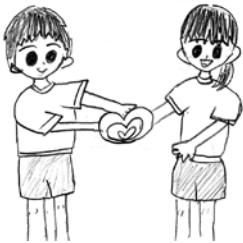
小4

▽私のクラスはケンカをよくします。でも、きずついて悲しい時、泣いている人を見かけたら、クラスの子は絶対見捨てません。その子の話を最後まで聞いてあげます。このクラスで生活していると、心が温かくなります。このクラスともっと仲良く生活したいです。

小5

▽わたしが、体調が悪くなって学校を早退した時、近くの家の友だちが、予定表をとどけてくれました。そこには「早く元気になってね」というメッセージが書いてありました。私は、とてもうれしくなって「ぜったい明日は1日学校にいるからね」と思いました。友だちが、私のことを心配して書いてくれてうれしくなりました。次の日、私は学校に行きました。すると、友だちが「きのうは大丈夫だった？元気に来れてよかったね」と言ってくれました。思いやりの気持ちを受け取ったわたしは、今度、その気持ちを友だちに届けたいです。

小4



小4

## ☆クラブ・習い事

▽ぼくは、野球をやっています。野球のコーチは、いつもぼくに注意をたくさんしていました。ある時、コーチが来たので、また注意されると思ったら「うまくなったな」とほめてもらったのでうれしかったです。この出来事から、一人一人、その人の良い所があるんだなと思いました。

小5



小5

▽ぼくは、野球をやっています。かんとは「うざいな、やだな」と思っていた人でした。でも、そのかんとかをやめてしまう時、ぼくに「ごめんな、言いすぎて。いい選手になれよ」と言ってきて、少しなみだが出てしまいました。その一言で、かんとは、ぼくがいい選手になってほしくて言っていたのだと気づきました。監督にもう一度成長したぼくを見てほしいです。

小6

▽ぼくは、野球をしています。お父さんは、平日仕事でつかれていると思うけど、土日は、ぼくの野球に必ずついてきてくれます。そして、練習をいっしょにやってくれたり、しあいの時は、しんぱんをしてくれたり、大きな声で声をかけてくれます。ぼくが「お父さん、いつもありがとう」と言うと「子どもも一生けんめいなら、お父さん応援するよ」と言ってくれます。家族のおかげで野球ができることに感謝しています。次の試合でもがんばります。

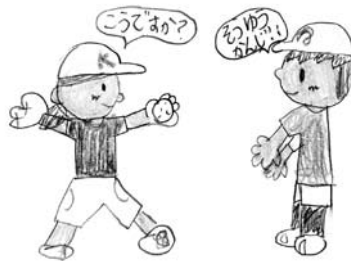
小5

▽私は、ソフトボールを習っています。私は、ピッチャーなので、小学校のグラウンドで、ピッチャーの練習をしていました。休日なので、体育館でインリナー大会が行われていました。すると、会を終えた子たちが、私が練習しているグラウンドに来て「がんばれー」と応援してくれました。いい球が投げられた時「すごいね」とほめてくれてうれしかったです。その声のおかげで今もがんばって練習を続けられています。

小6

▽私は、ソフトボールをやっています。私はピッチャーです。なので、かんとくに教えてもらっています。かんとくに言われたように投げてみると「そういう感じ」と言ってくれました。うれしかったです。私は、ショートもやっていますが、あまり守備は上手ではありません。そんな時こそ、かんとくが言ったことを思い出したり、考えたりしてやってみました。自分で思い出したり、考えたり、教えてもらったりのっていいことだなあと改めて思いました。

小5



小5

▽かけっこの練習をしてる時、コーチがわたしの走りを見てくれました。走り終わった後、「早くなったね」と言ってくれました。わたしはその言葉を聞いて「成長したんだな」と思いました。「大会あきらめずにがんばるぞ」という気持ちになりました。

小4

▽私は、水泳を習っています。昨年、やさしく指導してくれていたコーチがいそがしくてやめてしまいました。何度か手紙もくれたけれど、その後、ずっと会うことができませんでした。「もう、わすれちゃったのかな」と、心配になりました。日曜日、いつも通り水泳に行くと、そのコーチが泳いでいました。最初はあまり話せなかったけれど、少しずつ話せるようになりました。「今やっている泳ぎが難しい」と言う、「上級になれるようにがんばれ」と言われました。私は「今も応援してくれているんだ」「覚えてくれていたんだ」とうれしくなりました。あと少しで、私は、水泳をやめてしまうけれど、残りの日数を全力でやりきろうと思いました。

**小6**

▽ぼくは、サッカーをやっています。コーチは、試合の時、ぼくがミスをする、ふつうならおこるはずなのに「ドンマイドンマイ」とやさしく言ってくれました。ぼくは、その言葉を聞いて、コーチってこういう声かけをするんだとわかりました。また、練習でも「こうやってやるんだよ」「こうやって動くんだよ」とやさしく声をかけてくれるので、ありがたみを感じました。ぼくも、コーチのようにミスしても「ドンマイ」と言いたいです。

**小5**

▽私は、チアをやっています。8月8日にはっぴょう会があつて、7月におどれなかったふりつけが8月になっておどれるようになりました。自分のダンスが「じょうず」と言われて、がんばったどりよくがむくわれたのでよかったです。

**小2**

▽わたしは、じゆう道をやっています。ときどき来る高校生のお姉さんがいます。そのお姉さんは、わたしとても仲がいいです。そのお姉さんは、先生が「大きい人と小さい人でやって」と言った時に、まっ先に「いっしょにやる！」と言ってくれます。そのたび、わたしは、本当にうれしくなります。

小4



小4

▽わたしは、ピアノを習っています。1年生からやっています。初めはいとこといっしょにやっていました。いとこが大きくなってピアノをやめてしまったので、とても悲しくて、一人でがんばれるか不安になりました。ピアノの発表会で、一人でひいてきんちようしてまちがえてしまったけれど、みんなから「上手だったね」と言われて「一人でもだいじょうぶ」という自信がついてうれしくなりました。

小4

▽わたしは、今年、きびしい先生の所にピアノを習いに行きはじめました。きびしいと聞いていたので、こわそうだなあと思いました。ちゆういをたくさんされたけれど、行っているうちに「ありがとう」と思うようになりました。なぜかというところ、こんなにちゆういをしているのは、わたし、あまりおぼえられなかったり、できなかつたりしたから、ちゃんと正しくおぼえられるように教えてくれたのだと思いました。これからもたくさんちゆういしてほしいです。

小3

▽わたしは、ときどき、お父さんのバスケットボールのれんしゅうに行っています。わたしが、ドリブルのれんしゅうをしていると、お兄さんが、じょうずに入るほうほうを教えてくださいました。さいしよはなかなか入れられなかったけれど、お兄さんが「こうしたら入るよ」「おいしい、もうちよつと」とこえをかけてくれました。わたしは、たくさんれんしゅうして、ドリブルシュートがなん本か入るようになりました。すると、お兄さんもいっしょによるこんでくれました。「たくさんれんしゅうすれば、もつとうまくなるよ」と言ってくれました。わたしも、お兄さんみたいにやさしく教えてあげられるようになります。そして、もつとバスケットボールが上手になりたいです。

小2

▽ぼくは、こうみんかんで子どもバンドのキーボードをひいて、ちがうところでもピアノを習っています。でも、先生は、両方とも同じ人です。二つの場所でひく時が、同じ時になってしまつて、できるか心配していました。そうしたら、先生が「だいじょうぶだよ。できるよ」と言つてはげましてくれたので、できるといふ気もちでいっぱいになりました。先生は、いつも、ぼくが元気になる言葉をかけてくれるから、本番はうまくひくことができました。これからも、ピアノをがんばりたいです。

小3



小3



▽わたしは、もうすぐ、そろばんの1級のしけんがあります。練習をがんばっても、上手いかない日が何日も続きました。わたしは「どうしよう、受かるかな」ととても心配になっていると、お母さん、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃん、友だち、近所の人、みんなが「だいじょうぶ!」「がんばれ!」「1級はむずかしいけどいけるよ」と応援してくれました、その日から練習もうまくいき、しけんにぜったい受かる!と自信が持てました。

小5



▽ぼくは、歌が好きで、もっとうまくなりたいと思ったので合唱団に入ることに決めました。その合唱団は、瑞浪市ではなく土岐市の合唱団です。なので、仲のいい人は一人もいませんでした。初めて練習する日、知っている人はだれもいないので、教室に入る時、とてもきんちようしました。中に入ってすわって練習を見ると、お姉さんやお兄さんたちが「いっしょに練習しよう」と声をかけてくれたので、安心して練習に参加することができました。今では、知っている人もふえて、きんちようしないで楽しく練習しています。ぼくも、新しく入る子がいたら、やさしく声をかけてあげたいと思います。

小5

## ★地域の人のつながり

▽ぼくが、ランニングをしてつかれていた時、近所のおじいさんが、つかれていたことに気づいて「少し休んでいきなさい」と言って、休けいさせてくれました。ぼくも、近くにつかれている人や困っている人がいたら、できるだけ手助けをしたいと思います。

小5

▽ぼくが、小学校3年生の時の話です。家に帰って来たら、かぎが閉まっかけていて家にだれもみませんでした。雨もふっていて一人でこわかったです。心細くて大声で泣きました。そうしたら、となりのおばさんが出てきて「だいじょうぶ？うちの家に入る？」と声をかけてくれました。おばさんの家に入ろうとしたら、ちようどママが帰ってきました。ぼくは、おばさんに「ありがとうございます」と言って自分の家に入りました。ぼくも困っている人がいたら、助けようと思います。小5

▽今年、コロナでラジオたいそうがなくなってしまいました。でも、近所のおじいさんが、近くの子を集めてラジオたいそうをやってくれました。さいしよは、早起きするのかもしれないけど、行ってみたら楽しかったです。カードにシールをはってもらえたし、きそく正しい生活ができたので、よかったです。

小4



小4

▽ぼくは、学校の分団登校班長をしています。登校の時、いつもついてきてくれる緑色の服を着た人がいます。その人は、横断歩道をわたる時に、車が来ないか確認して、みんなが安全に登校できるようにしてくれます。ある日、分団のみんなの列が乱れました。ぼくが注意をしてもしやべるのに夢中で聞いてくれません。ぼくがこまっていると、そのついでくれる人が「班長さんの言うことを聞くよ」と言ってくれました。すると、分団のみんなは、すぐに言うことを聞いてくれました。ぼくは、その人はすごいと思いました。そのことをしたら自分がいいことがあるわけでもないのに人のために動いていたからです。ぼくは、助かりました。なので、ぼくも、だれかが困っていたら、その人のためになることをして助けてあげたいです。

小6



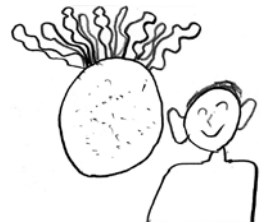
小6

▽いつも、ぼくの分団の後ろにパトロールのおじさんがついて来てくれます。ぼくの弟が登校中に体調がわるくなった時、すぐに学校にれんらくしてくれて「○○君のお母さん、お父さんに電話をしてむかえに来てください」と言ってくれてすごいなと思いました。ぼくは、弟といっしょにすわろうとしたら「おじさんが、この子をみてあげるよ」とやさしく言ってくれたのが、ぼくのちよつといい話です。

小6

▽冬に、兄弟で家のまわりを散歩しました。すると、近所のおじいさんがいました。「こんにちは」とあいさつをすると、とても大きなだいこんをくれました。コロナでどこにも行けないけれど、おじいさんのえがおと、やさしい気もちがすごくうれしかったです。

小2



小2

▽私が、外でメダカの水そうを洗っていました。すると、家の前に住んでいる人が来て「何びき飼っているの？」と聞かれたので「一匹しか飼っていません」と言うと「メダカを飼っているからよかったらあげようか。一匹じゃかわいそうだし」と言ってメダカをくれました。とてもうれしかったです。オスとメスがいたので卵が産まれるのが楽しみです。大切に育てたいです。小5

▽きのう、パパが、あゆをつつてきて、すみ火でやきました。ぼくのかぞくではたべきれないので、とりのおばさんと、下のおばさんにもっていききました。とてもよるこんでくれてゼリーとうなぎをもらいました。ぼくは、そんなつもりではなかったけれど、うれしかったです。小1

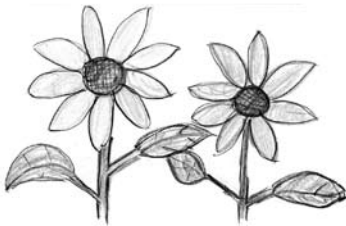
▽いえのまえのみちは、よく草がはえるので、きんじよの人が草かりをしてくれます。ふつうはじぶんのおうちのまえしかやらないけれど、その人はなにも言わずにやってくれます。わたしもみんなのためにがんばる人になりたいです。おれいをゆうきをだして言いたいです。小1

▽「おはよう」ぼくが、毎朝、登校する時、公園であいさつをしてくれるおばさんがいます。そのおばさんは、ぼくが赤ちゃんの時から公園のそうじをしてくれています。おばさんは、ぼくを見るといつも声をかけてくれます。コロナで、学校が休校になり、公園に行くことがありませんでした。休校があけて登校するために公園に行くと、おばさんの姿がありませんでした。何日かたつてもいなくて、ぼくは、とても心配でした。しばらくして、おばさんが公園に来てくれました。白いマスクをして少し元気がないように見えました。ぼくが「おはようございます」と声をかけると「おはよう」とこたえてくれました。コロナになって、当たり前の毎日が、当たり前じゃないことにあらためて気づかされました。

小6

▽ぼくのいえのにわに、とても大きなひまわりがさきました。大雨でたおれてしまつてかなしかつたけれど、まへのいえのおばあちゃんが「あんなに大きなひまわりをはじめて見たよ。ありがとう」と、ひまわりのえてがみをくれました。すごうれしかったです。らい年も大きなひまわりをそだてたいです。

小1



小1



小6

## うれしい出来事

▽夏休みにお寺まいりに行きました。お寺のさんどうにおじぞうさんがたくさんあったので、一人一人に手をあわせていきました。そしたら、上からおりてきたおじさんとおばさんが「えらいね。おりこうさんだね」とほめてくれていたとお母さんから聞きました。うれしかったです。

小2



小2

▽ぼくは、習い事に行くために電車を使います。ある日、黄色い点字ブロックから出ていることに気がついてなかったぼくに、知らない高校生が「危ないよ」注意してくれました。うれしかったです。ぼくも、知らない人でも、年上や年下の子でも、注意できるようにしたいです。

小5

▽ぼくが、ようじえんのとき、ふうせんをそらにみんなでとばしました。そのとき、ぼくのふうせんは、やまがたけんつるおかしまでとんでいきました。こうじげんばにおちて、そこではたらいにいる人がひろってくれました。かいたてがみにへんじをかいてくれました。そんなにおくまでとぶとおもっていなかったし、へんじもかえってくるとおもわなかったのとでもうれしかったです。

小1



小1

▽わたしは、海に行きました。順番にならんでいると、前にいた人が「順番変わってあげようか？」と言ってくれました。でも、わたしは、ことわってしまいました。すると「ありがとう。少し時間がかかるけどいいですかね」と声をかけてくれたのです。とても心が温まりました。もし、こういうことがわたしにもおきたら、この方のように温かい声をかけてあげたいです。

小5

▽わたしは、登校中にめがねを落としてしまいました。歩いている時に、ポケットに入れたつもりだったのに、学校に着いたらめがねがありませんでした。先生に相談したら、家に電話をしてくれて、お母さんが探してくれることになりました。お母さんが通学路を歩いて探していると、道のはしに、わたしのめがねが置いてあったそうです。近くの人が拾って置いてくれました。お母さんは、その人にお礼を言ってくれました。心の中では、めがねをなくしてどうしようかと心配していましたが、ぶじにもどってきて安心しました。拾ってくれた人に感謝の気持ちを伝えたいし、自分の物を大切にしようと思いました。

小4

▽ぼくたちの住む地区では、大きな木が大雨のえいきょうでたおれてしまいました。とてもびっくりしましたが、その地区では、今何ができるのかみんなで協力していました。ぼんや、その木を使って工作など、たくさんの工夫をしていたので、ぼくも、大変なことが起きても、あきらめないで、次、できることを考えて協力をしていきたいです。

小4

▽私の誕生日に、お母さんにマンガを買ってもらいました。続きが気になるので、たくさん買える中古のものでした。段ボールやビニール袋などを取っていると、中からふせんが出てきて、何かかいてありました。名前も顔もどんな人かもわからない人からの誕生日のメッセージでした。知らない人だけど、その言葉に心が温まりました。

#### 小6

おたん生日おめでとう。

本と本の間に おかしみ を  
いれておいたよ！  
よむたら食べてね

おかしみ  
お楽しみください。

小6

▽私のお姉ちゃんが、少し前に20cm以上かみの毛を切りました。その時に、切ったかみの毛を「ヘアドネーション」しました。その時は「ヘアドネーション」の意味がよくわからなかったのですが、家に帰って調べました。「ヘアドネーション」とは、病気や事故で、かみの毛をうしなつた子たちの医りよう用ウィッグを作るために、かみの毛をきふすることでした。切って捨てられてしまいうかみの毛が、だれかしらの役に立てることはうれしいことだと思いました。今度は、わたしのかみの毛がのびたら、ヘアドネーションしたいです。

#### 小4

▽ぼくが、4年生の3学期のころ、クラス写真をとりました。でも、ダメな部分もあったからとり直して、みんなが「その写真がほしい」と言っていました。でも、4年生のうちにはもらえず「忘れちゃったのかな」と思いました。でも、5年生の夏休みに、とり直した写真が家にとどきました。先生は忘れずにとどけてくれたのでうれしかったです。

#### 小5



▽ぼくのお父さんは消防団員です。瑞浪の花火でけいびに行きました。みんなが花火を楽しんでいるうらで、安全のためにけいびをしていました。毎年そうなので、ぼくは、瑞浪の花火をお父さんと見たことはありません。だけど、同じ花火を見ていると思うときみしくありません。小4

▽夏休みのはじめ、ぼくの家の近くに救急車が来ました。おばあさんが、熱中症で運ばれるところでした。消防署の人たちが、とても暑い中、助けが必要な人のために一生けんめい働く姿を見てかっこいいと思いました。ぼくのお父さんも消防士です。家では、楽しいお父さんだけど、仕事の時はこの消防士さんたちのように、人の命を救っていると思うと大変だけど、これからもたくさんの人のためにがんばってほしいなと思いました。小6

▽この前、雨の中、木をどけている人がいました。台風が続いて、折れている木や、風でとんできたものなどが道路に落ちているので、それをひろっていました。みんなのために、雨がふってもやっている人を見て、心があたたかくなりました。小5

▽わたしの家の近くで、電柱の仕事をしていました。とても暑い日でしたが、工事をしている人たちは、作業をしていて、頑張っていてすごいと思いました。わたしたちが、電気を使えるのは、工事の人のおかげだなと思いました。小5

▽登校中の時でした。その日は、雨がふっていて気分があまりよくありませんでした。それは、通学路に水たまりがあると、水がかかってくる道があるからです。わたしは、そこを通過して何回か水がかかったことがあります。通った時、ちょうどトラックが横を通る直前でした。その時、運転手さんが、かからないようによけてくれました。知らない人がやさしくしてくれてうれしかったです。

小5

▽少し前「ほんわかシアター」というげきだんを見ました。中身がおもしろかったので「ありがとうございますございました」と言ったら「いやいや、こちらこそ来てくれてありがとうございます」と言ってくれました。ぼくが、もしぎやくの立場だったら、ぜったいにできなかったと思うので、とても心があたたかくなりました。

小3

▽わたしは、歯がいたくてにゅういんをしました。にゅういんがふあんだったけど、いつも、かんごしさんがはげまして、やさしくしてくれたり、毎日、朝ごはんをわたしのびよう室まではこんでくれてうれしかったです。かんごしさんは、いそがしいのに、びようきの人のためにがんばってくれて「ありがとう」という気もちです。やさしいかんごしさんが大すきです。わたしも、そんな自分になりたいです。

小3



小3

▽お店で探しているものがなく、店員さんに聞いてみました。その店員さんは、私に「すみません。なかったです」と言いました。ふつうなら、また、仕事にもどるのに、返事をした後も探し続けてくれました。探していたものは、なかったけれど、その店員さんのおかげで心が温かくなりました。その時の店員さん、ありがとうございました。

小6

▽ラジオ体操の帰り道、歩道で草とりをしているおじいさんがいました。おじいさんは、一週間ぐらい、草取りをしてくれていました。そのおかげで、自転車や歩く時が楽になりました。あいさつはできたけれど、お礼が言えなかったので、言えるようにしたいのと、自分が歩く道なので、ぼくも草とりをしたいです。

小6

▽としよかに本をかりにいったとき、2さいの女の子とあいました。いっしょに本をえらんんだり、あそんだりしていたら、女の子のお母さんが「ありがとう」といつてくれて、うれしかったです。

小1

▽「お土産なににしようかなー」と選ぶ時、思いうかべるあの人の顔。お世話になってる人や、お土産をくれた人たち。なので、ぼくは、お土産を選ぶのが大好きです。

小5



小5

▽私が、化石公園まで歩いてみると、水の流れをよくするために、おばあさんがそうじをしていました。わたしが「こんには。がんばってください」と言うと、おばあさんは「ありがとう。ちよっとまって」と言っていて家の中に入ってしまいました。5分くらいたったら、おかしを持って出てきてくれました。わたしが「ありがとう」と言うと「いいんだよ。がんばって歩いてね」と言ってくれました。みんなのためにはたらいてくれて、わたしにも気づかいをしてくれるやさしいおばあさんだと思いました。わたしもおばあさんのようにみんなにやさしくしたいです。

小3



小3

▽ぼくは、夏休みに一週間お風呂そうじをすると決めました。夏は暑いので、冷たい水であらえるし、手も足も冷たくてかんたんなお手つだいだと思いました。でも、お姉ちゃんや、じゅくに行く前にお風呂に入るので、5時までに洗わないといけないし、テレビを見ている時に「あらって」と言われるとめんどうくさいなと思っていました。でも、今まで、冬の寒い日もお風呂をあらってくれていたんだと気づくことができました。当たり前前にきれいなお風呂に入れることは、本当は当たり前じゃないんだと思いました。これからは、家族と自分のためになにかお手つだいをしようと思います。

小4



小4

▽わたしは、6月からアゲハちょうをたまごからだいじにそだてていました。さなぎの時は、ちよっとさびしかかったけれど、ちょうになつたら、とんでいく前に、わたしの手の上に登ってきてくれてとてもうれしかったです。それから数日たつと、毎日、にわにアゲハちょうがとんでいて、わたしのそだてたアゲハちょうかなと思ったり、そのアゲハちょうが「ありがとう」と言っているみたいで心があたたかくなりました。

### 小3



小3

▽学校帰りの山道で子ネコを見つけました。一度目は通りすぎましたが、やっぱり気になりもう一度もどって見に行きました。そうしたら、目が見えなくて道路に出てきてしまいました。今にも車にひかれそうかわいそうだったので、とりあえず病院につれて行きました。治りように2ヶ月かかったけれど、今は、目も見えるようになり、すっかり家の子になりました。家族になれてボール遊びもできるようになりました。これからもたくさんかわいがろうと思います。

### 小5

▽先日、中部盲導犬協会に行ってきました。そこで、視覚障害のあるスタッフさんに話を聞きました。そのお話の中で、どこかに出かける時、盲導犬と一緒にいても不安なので、そんな時、みなさんが「大丈夫ですか？」と声をかけてくれるのでうれし、すごく助かると言っていました。だから、わたしも困っている人がいたら、声をかけられるようにしたいです。

### 小5

▽ぼくは、水たまりがきらいでした。なぜかという、くつに水が入って足がぬれるからです。水たまりを見ると、早く水がなくなればいいのと思っていました。でも、雨上がりのある日、いつも大きな水たまりができる場所を見たら、5羽のすずめたちが水たまりで水遊びをして遊んでいました。その様子は、とても気持ちよさそうでした。だから、ぼくは、この水たまりがずつとあるといいなと思いました。その日から、ぼくは、水たまりが好きになりました。また、すずめたちが遊びに来てほしいと思いました。

小3

▽夏休みにオリンピックを見ていたら「ぼくと同じ名前のせんしゅがいるよ」とかぞくが言いました。そのせんしゅが金メダルをとりました。かぞくみんなが「すごいね」「よかったね」とぼくが言われました。ぼくがメダルをとったわけではないけれど、なんだかうれしいきもちになりました。これからもこのせんしゅをおうえんしたいです。

小2

▽なつやすみにオリンピックをテレビでみました。たくさんメダルをもっているところを見て、スポーツでせかいいちつよくなると、あんなにキラキラしたメダルをもらえるんだ、いいなとおもいました。メダルをもった人ももらえなかった人もメダルみたいにキラキラかがやいてみえました。

小1



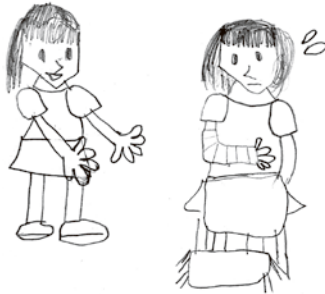
小1

▽ぼくは、なかなか「ごめんなさい」が言えませんでした。この間、ばんごはんのおかずを落としてしまいました。おばあちゃんに、おこられた時、すぐに「ごめんなさい」と言いました。すると、おばあちゃんが「今日はすぐにごめんなさいと言ってえらかったね。お兄ちゃんになったね」と言ってくれました。ゆう気を出して「ごめんなさい」と言ってよかったなと思いました。これからも、自分から「ごめんなさい」と言えるようにしたいです。

小4

▽みずなみ市にひっこしてきてすぐ、わたしは、うでをこっせつしてしまいました。親や友だちやスーパーなどのお店の人に心ばいしてもらい、いろいろ手つだってもらいました。とても心がポカポカしました。まわりの人たちが「大じょうぶ？」と言ってくれたり、重たいものや大きいものをもってくれました。とてもうれしかったです。こっせつが治り、声をかけてくれた人に感しやの気もちでいっぱいです。今では、こっせつやけがをしている人がいたら、大じょうぶかなあと思ったり、なにかできることがないかなあと考えたり行動したりするようになりました。助けてくれるやさしい人がいっぱいいるみずなみ市は、すてきなあと大すきになりました。

小3



小3

# 中学校編





☆ あいさつでニコニコ笑顔

.....  
43

☆ 家族っていいな

.....  
47

☆ 友だちっていいな

.....  
54

☆ 部活・クラブ仲間とのきずな

.....  
62

☆ 地域の人とのつながり

.....  
71

☆ うれしい出来事

.....  
74

ありがとう!



▽私には、二人の兄がいます。兄は二人とも家に友だちをよく連れてきます。家に入る時に「お邪魔します」とか、家の中ですれ違った時には「お邪魔しています」「こんばんは」とかを言ってくれる人がほとんどで、すごく気持ちがいいです。私のおばあちゃんや母は、郵便や宅配が来た時などに、いつも「ありがとうございます」の前に「お疲れ様です」と言っています。そんな兄の友だちや家族を見て、挨拶って大事だなと実感します。私は、挨拶は、相手がしたら返す、相手が挨拶をしなければ会釈というふうに分から挨拶をすることは少ないです。だから、私は、これから他の人みたいに自分から挨拶ができるようになりたいと思います。

中3

▽僕は、毎朝すれ違っておじさんがいて、そのおじさんに初めは挨拶をしていました。でも、挨拶をしても、そのおじさんはうなずくだけでした。僕はうなずいてくれるだけかと思っていて、だんだんと挨拶をしなくなりました。でも、やっぱり挨拶をしたいと思い、それから笑顔で挨拶を続けました。すると、ある日、そのおじさんが笑顔で「おはよう」と言い返してくれました。その一言で一日の活力になったことを今も覚えています。それと同時に幸せにもなりました。それから、僕自身、人を幸せにできるような挨拶をするように心がけています。

中3

▽いつも登下校していると地域の方に会ったり、知っている方に会ったりします。出会った方に挨拶をすると、朝は「おはよう」「いってらっしゃい」夕方は「おかえりなさい」「こんばんは」など必ず地域の方は挨拶を返してくれます。挨拶は、当たり前のようにしているけれど、返してもらえないとうれしいし、あたたかい気持ちになります。私の地域の方は、優しく温かい方ばかりです。

中3



中3

▽地域の人に会うと、しつかり挨拶をしている。ぼくは、野球をしていて、監督から「礼儀はきちんとしなさい」といつも言われている。ある日、学校に行く途中、近所のおばさんに会った。急いでいたけれど、しつかり挨拶をした。すると、おばさんから「礼儀がいいね」と言われた。朝から気持ちよく学校に行くことができた。今思うと、小学校の監督に毎日毎日言われたけれど、礼儀を教えてくれて感謝しています。今も、挨拶を続けています。

中3

▽夏休みのことでした。学習確認日で登校していると、一人のおばあさんとすれ違いました。僕が挨拶をすると、マスクをしてもおばあさんが笑顔で挨拶をしてくれているのがわかりました。僕は、とてもうれしくてほっこりしました。これからも挨拶をしようと思わせてくれる夏休み中の出来事でした。

中3

▽僕の近所には、とても元気な年配の夫婦が住んでいます。その人たちに挨拶をすると、いつも返してくれます。最近では、「学校頑張ってるね」「今日は何があるの？」や、物をたくさん持つている時には「どうしたの？そんなに物を持つて」と心配してくれます。終業式の際に「明日から夏休みなんですよ」と言う、「頑張ったね」と言ってくれました。その言葉で自分は謎の達成感を感じました。これからも挨拶を欠かさずしたいと思いました。

中1

▽私は、夏休み中、コミュニティバスに乗って、塾に行っていました。私はコミュニティバスに乗るのは初めてだったので、少し緊張していました。その時、乗ってきたおばあさんが「こんにちは」と挨拶してくれました。私は、何だか温かい気持ちになり、お辞儀を返しました。夏休み中、おばあさんは乗ってくると、いつも挨拶やお辞儀してくれました。私も見習ったくさん挨拶をしようと思いました。

中3

▽家に帰る道を歩いていたら、近所のおばあさんが「おかえり。毎日えらいね」と言ってくれました。私は、自分でも挨拶をしてくれる温かい人がいるんだなあ、自分もあんな人になりたいなあと思いました。それから、私は、自分からおばあさんに「いつてきまーす」と挨拶をするようになりました。今日も私とおばあさんは、笑顔で挨拶をしています。

中2



中2

▽僕は、登校中、散歩をするおばあさんやバスの運転手さんなど、いろんな人に会います。その時に、挨拶をすると、明るく「おはよう」と返してくれます。都会では、人が多くて会った人一人一人に挨拶をすることはなかなか難しいと思うので、田舎ならではの温かさだと思います。今は、中学3年生になって、人に挨拶をするのは、何だか恥ずかしい気持ちもあります。でも、明るく挨拶をして、元気をくれて見守ってくれる地域の人への感謝の気持ちを込めて挨拶をしていきます。

中3

▽朝、登校する時に「今日も学校かあ〜」「めんどくさいし、行きたくないなあ〜」と思いながら歩いていました。その時に、地域のおばさんが「おはよう。学校がんばってね!」と挨拶をしてくれました。それで、僕は「今日もがんばるか」とやる気スイッチが入りました。そして「おはようございます」と元気よく挨拶を返しました。このことがあってから、今日も元気に学校へ行けています。

中2

▽いつも登校する時に、たまにおばあちゃんが声をかけてくれます。いつもどうすれば良いかわからなくてお辞儀をするだけでしたが、心はものすごくあったかかったです。

中2



中2

## ☆家族っていいな

▽私は、小学校の時からピアノを習っています。私は、ピアノが好きだけど、学校から帰って来てからピアノの練習もしなければいけないし、宿題もしなければいけないので、疲れた状態で習い事に行くことになりました。なので「行きたくないな」「めんどくさいな」と思ってしまうます。でも、習い事に行く時に、お母さんが「頑張ってるね」や「いつてらっしゃい」と言ってくれます。お母さんは、いつも送ってくれて、私の方が感謝を伝えたいのに、応援してくれるのでうれしいし「頑張ろう」と思うことができます。

中1



中1

▽少し前に、学校に行きたくない日がありました。その日は、朝から気持ちのならず、家族に「おはよう」と言われても返していませんでした。しかし、家を出る時に、母に「大丈夫？」と心配の言葉をもらい少し心が軽くなりました。そして「いつてらっしゃい」と言われた時、背中を押された気がして気持ちがとても晴れました。この経験で、これからは落ち込んでいたり、元気がなかったりする子に対して安心できるような言葉を伝えていきたいです。そして、私のことを励ましたり元気づけてくれる家族や友だちを大切にしていこうと思います。

中3

▽私の母は仕事から帰るとすぐ疲れた様子で家事をしています。そんな母を手伝おうと、お昼ご飯を食べて母が2階に行っている間にお皿を拭いてあげました。その後、私は眠くなってしまう寝ていると、母が戻ってきて「大きくなったね」と私に言いました。その時は、半分起きていたので、成長をずっと見ていてくれたんだと少し心が温かくなりました。

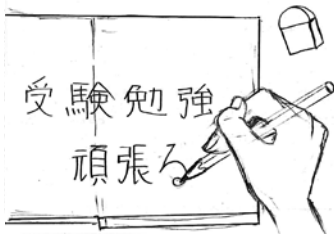
中2

▽今年、3年生になった僕は、毎日受験生として生活を送っています。元々、勉強が得意ではなかった僕は、なかなか自分から勉強ができず悩んでいました。すると、母が、塾に入れてくれました。そのお陰で勉強をすることが楽しくなり、自分から目標を持ち、頑張れるようになりました。わざわざ塾に入れてくれた母には、感謝しているし、応えるためにも頑張りたいです。

中3

▽私は中学3年生の受験生です。高校に入るために勉強を頑張らなければいけません。しかし、勉強が嫌いな私は、あまり頑張っていませんでした。そんな私に、母は「そんな点数で○○高校に行けないよ」と怒りながらも支えてくれます。苦手な英語と数学がわかるように攻略本や参考書を買ってきてくれたり、ちよつとした時間に問題を出してくれます。私以上に頑張つて支えてくれる母の願いに応えられるように、受験まで一生懸命勉強をして頑張ります。受験生の皆さん、一緒に頑張りましょう！

中3



中3

▽今年を受験生のため、夜遅くまで勉強していることが時々ありました。勉強が終わってから、入浴などの寝る準備をしていると、かなり遅い時間になるのに、私の父と母は私が寝るまで起きていてくれました。先に寝てもいいのに：と思っただけ、ちよつとうれしかったです。さりげないやさしさだけ、それでうれしい気持ちになれたから、父と母を見習って、さりげなく優しい行動をしていきたいです。

### 中3

▽私は、クラスの学級委員に立候補しました。その時、私は、生徒会執行部になりたいと思っていたので、自分の実績を作るために立候補しました。他にも立候補をしている人はいましたが、私は自信に満ちていました。「絶対に学級委員になれる」と思い、クラスの前で演説しましたが、ところが、自分の思った結果にならず、落ちてしまいました。残念な気持ちでいっぱいになりながら、家に帰ると、父が私のいつもと違う様子に気づき「どうしたの？」と聞いてくるかと思ったら「食べに行くか」と言ったので、私は驚きました。父に、自分の失敗したことを知られるのはとても嫌だったので、父の気遣いがとてもうれしかったです。父は私の好きなお店に連れて行ってきて、「食べたいものを好きに頼めよ」と言い、私を元気づけてくれました。でも、悔しい思いでいっぱいだったため、思わず涙が出てしまい、父に今日あったことを相談しました。父に怒られると思っていたけれど、私の話を懸命に聞いていました。その後、自分の失敗談をし、笑わせてきました。悲しい気持ちでいっぱいだった私を笑わそうとしてくれた父に感謝です。

### 中3



▽去年、私の家に赤ちゃんが生まれました。もうすぐ1歳になる〇〇は、最近、はいはいや伝い歩きができるようになりました。また、8歩くらい手を離して歩けるようになりました。〇〇は歩く気満々で、転んでもすぐ立って歩こうとします。そんな〇〇を見て、私は、とても心が温かくなりました。また、私ができないことがあった時は、何度も挑戦して、失敗しても繰り返しできることを増やしていきたいです。

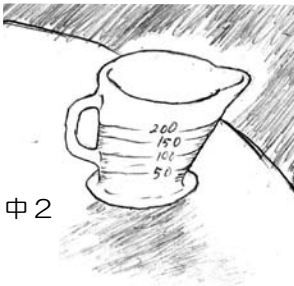
中2

▽一年前、弟が生まれるまで僕は、母に怒られ、夕食の前でも全く動かず、母に迷惑をかけていました。しかし、僕は、中学生になり、弟が生まれた時から、自分から動き、母を楽にさせてあげることが増えて「ありがとう」と言ってもらえ心が温かくなりました。勉強でも、普段やってきた倍やり「すごいやん」と声をかけてもらいたいと思いました。

中2

▽一人暮らしをしている兄の所へ行きました。母が机に置いてあったカップを見つけて「このカップかわいい」と言ったのを兄が聞いていました。それから、3ヶ月後くらいに兄を迎えに来ました。すると兄は、母に「これ」ただけ言い、母が欲しいと言ったわけでもないのに、カップを買ってプレゼントしてすごく優しいなと思いました。母は車の中でも家に帰ってもとても喜んでいました。

中2



中2

▽家でご飯を食べて、流しに食器を入れテレビを見ていると、母から「食器は自分たちで洗ってね」と言われました。すると、先に弟が自分の食器を洗いはじめました。洗い終わって戻ってきたので、キッチンに行って洗おうと思ったら、食器がすべて洗ってあったのです。洗ったものには汚れがまだ残っていたり、泡が付いていたので洗い流しましたが、弟の優しさが伝わったので、少し心が温かくなりました。

中2

▽私には、3才上の兄がいます。兄は今、大学1年生です。夏休みを機に帰省をしました。ある日、私は、夏休みの宿題でわからないところがあつて、兄に尋ねました。文句を言いながらも引き受けてくれ、口調がきつかったけど、わかりやすく教えてくれました。しかも、毎回考え方を紙に書いて渡してくれます。私は、わからなかった問題と同じような問題と出会った時、考え方を見ながら解くので、大変助かっています。また、類題を作つて来てくれます。兄でも優しくできると感心しました。

中3

▽夏休み前に、1時から塾がありました。その日は、時間がなく、もう出る時間だったので、何も食わず行こうとしたら、姉が「ジュースでも飲んで行きなさい」と私に自分のジュースをくれました。姉は、普段は、私に悪口を言ったり、自己中心的な所もあったけれど、何だかんだ私のことを考えてくれる優しい姉で少しうれしかったです。

中3

▽私には、中学1年生の妹がいます。妹は、ソフトボール部に所属していて、夏休み中、素振りやピッチングの課題が出されていました。私は、高校でも部活で頑張ろうと決めていたので、一緒にやることにしました。課題の量は多くて、毎日続けることは正直とてもきつかったです。課題を終えて家に帰ってきたら、妹が「一人でやったら絶対続けられなかったよ。ありがとう」と言ってくれました。その言葉を聞いた時、とてもうれしい気持ちになり、一緒に達成できて本当によかったと思いました。

中3

▽私は、ばあちゃんが大好きです。ばあちゃんは、よく私たち孫のことを「かわいいねー」と言ってくわいがしてくれます。私の自慢のばあちゃんです。夏休みのある日、ばあちゃんは「演奏会、楽しみにしてるね!」と言って、私が所属している吹奏楽部の定期演奏会を誰よりも楽しみにしててくださいました。しかし、コロナウイルスのせいで演奏会は中止。私は、もちろん悔しかったですが、それ以上にばあちゃんが悔しがっていました。「あんなに楽しんで頑張ったのにね。中止って聞いたら涙が出てきたよ」と言うばあちゃんの一言がうれしかったです。定期演奏会とは別のイベントのビデオを見せてあげた時には「孫が頑張る姿が一番うれしいよ」と言ってくれました。まだ、直接は演奏をばあちゃんに聞かせてあげられていないけれど、いつか聞かせてあげたいです。いつも私のことをかわいがって応援してくれてありがとう。

中2

▽私には、88歳になったおばあちゃんがいます。88歳ということでも米寿祝をしました。みんな  
で「おめでとう」と言ったら「私のためにわざわざありがとう」と言っていました。私は、プレ  
ゼントは渡していないけれど、とてもいい気持ちになりました。そして「お礼って心を温めてく  
れたり気分をよくしてくれるんだな」と思いました。たった5文字の「ありがとう」でも人の心  
を変えられる素敵な言葉でした。これからもちよつとしたことでも「ありがとう」をしつかりと  
伝えられるような自分になりたいです。

**中3**

▽自分は、いつも母や祖母に叱られます。特に祖母には一日5回ほど注意を受けます。「少しカ  
ーテンが開いた」「ポケットからハンカチを出せ」などの細かな内容です。それくらい大丈夫な  
のではないかと思えます。なので、私は、親に「何で祖母は自分によく注意してくるの？」と聞  
きました。すると「祖母は、あなたが頑張っているから期待している」と言われました。自分は  
認められていないだけだと思っていたので、それを聞いてとてもうれしくなりました。

**中3**

▽僕は、誕生日に祖母からバースデーカードをもらいました。そのカードには「Happy Birthday」  
や「Wishing you many more」と書いてありました。その言葉の意味は「もつと多くの幸せが訪  
れますように」という意味で、とても心に響きました。今年は、家族で旅行などができなかった  
けれど、とてもよい誕生日になりました。

**中1**

## ☆友だちっていいな

▽僕が中学校に友だちと登校している時のこと。焦っていた僕は、定規をズボンのポケットに入れたまま歩いていました。ところが、学校に着いてポケットの中を探しても定規がありません。友だちに「道に落としたかもしれないから探してくる」と言って一人で探しに行きました。一人で探していると、一緒に歩いてきた友だちがやって来て「俺も手伝うわ」と言って探すのを手伝ってくれました。結果、定規をちゃんと見つけることができました。僕は「友情」ってこういうものなんだと思い、心が温かくなりました。

中2

▽夏休みに美術の宿題がありました。絵を描くのは苦手です。どうしようか悩んでいた時、友だちが「こんな感じにするといいよ」と優しく教えてくれました。友だちも忙しく、遅い時間だったのにも関わらず、写真を送ってくれたり「この宿題は終わってる？」と他のことも気にかけてくれました。この子は、夏休みだけでなく、普段の学校生活でもお世話になっています。授業中、わからない問題があった時も、その子と一緒に考えたり、お互いのわからないところを教え合ったりしています。私は、その子に普段の学校生活でも、家に帰った後も、支えてもらっています。なので、私も、その子が困っていたら、助けてあげられるようになりたいです。

中3

▽僕は、中2で勉強が追いつけなくなり、野球を辞めました。今年の夏休み、元チームメイトが遊びに誘ってくれて、とてもうれしかったです。でも、いきなり辞めた僕に優しくしてくれるか心配でした。しかし、みんなまだ、同じチームの中にいるように関わってくれて、楽しみの少ない40日間が一日で思い出いっばいになりました。

中3

▽少し前、僕は、授業の発言の時に、誤答をしてしまいました。僕は、心の中で少し落ち込んでしまいました。だけど、友だちがその誤答を笑いに変えてくれて、僕やそれを聞いた仲間も思わず笑ってしまいました。それで、僕の心の中にあつた雲もすっかり晴れて気持ちよくなったので、友だちは自分にとってとても大切な仲間になりました。

中2

▽私は、ゲームなどを通して知り合つて連絡している友だちがたくさんいます。その日は、自分の気分が乗らず、ずっと情緒不安定でした。すると、その友だちが「どうしたの？元気ない？」と異変に気づいてくれました。でも心配はかけたくないので「大丈夫だよ」と言うと、その友だちは「元気がない時、いつでも言つてね。必ず元気にさせるから」と私を元気づける言葉を言ってくれました。会つて日も経つていない友だちが長いこと一緒にいる友だちのような感覚でした。しかも、すぐ異変に気づき、自分が元気づけられる言葉を言ってくれてうれしかったです。なので、私も異変とかに気づいたら、元気づけられる言葉をかけてあげたいです。

中2

▽今年のクラス替えで私は、仲の良い子と別れてしまい、一人でポツンと居ました。私はコミュニケーションが苦手な話しかけることもできなくて困っていました。そんな時に、ある一人の子が「一緒にしゃべろう！」と声をかけてくれました。今では大の仲良しです。話してくれてありがとうございます。今がすごく楽しいといつか伝えたいと思っています。

中2



中2

▽ある日の下校、僕が友だちと帰っている時、おばあさんが、一輪車を重そうに持って歩いていました。そこで、一人の友だちが、おばあさんの代わりに一輪車を持ちに行っていた。もう一人の友だちも、手伝いに行った。おばあさんを助けようとする決断力がすごいと思った。また、すぐに手伝いに行く友だちの姿もすごいと思った。自分一人だったら助けに行かないと思った。名前も知らないおばあさんを助けに行く決断を優しさがすごいと思った。自分は、友だちのような決断力はないが、できる限り友だちが困っていたら助けに行けるようにしたいと思った。

中3

▽友だちと待ち合わせの時「事情があり少し遅れる」と連絡をして待ち合わせ場所に急ぐと、友だちがやることの準備を終わらせてくれました。友だちは「遅くなると思ったから」と嫌な顔せずと言ってくれたので、すごくうれしかったです。また、その後も付き合ってくれて「このお礼は必ず返そう」と思いました。自分も気遣いができるようになりたいです。

中3

▽わけもなく急に涙があふれてしまった時に、友だちがすぐなぐさめてくれた。いつも一緒に帰っている子で、とてもうれしかった。私が、あまりなぐさめられるのが好きじゃないのを気にしてくれて、泣き止むのを待ってくれた。最近、いろんなことがあったせいで、泣いてしまったと思うけど、人のことを考えながら対応してくれる私の友だちはとてもいい人だと思う。

中3



中3

▽私は毎日、生きるのがつらいと感じます。何もできない自分が嫌いだし、個性も何もない自分が嫌いだし、こんな自分が嫌で嫌で毎日が苦痛でした。でも、ある時、親友からの何気ない一言が自分を変えてくれたのです。ほんの一瞬、その時の言葉が自分の心に刺さったのです。親友からの言葉のおかげで私は、前よりも生きる自信がついたし、生きるのが少しでも楽しいと感じるようになりました。

中3

▽私を通っている中学校は4つの地域の人が通っています。入学式の時、人見知りの私は「友だちできるかな」と不安に包まれていました。そんな私に優しく「はじめまして。たくさん話そうね」と声をかけてくれた子がいました。その子が私に勇気をくれました。今となっては、不安はありません。そして自分から話かけに行くことができるようになりました。ありがとう！

中1



▽私は、受験生です。夏休みの期間、ほぼ毎日、塾に通って勉強していました。その時、違う中学校の友だちもいて、一緒に自習をしていました。自習中、とても寒くなつて震えていると、友だちが羽織を貸してくれました。私が塾に向かう時は晴れていたのですが、羽織を持っていきませんでした。友だちが貸してくれて寒さがなくなつたし、集中して勉強することができてとてもうれしかったです。それだけでなく、私の友だちは、私が解けなくて困っている問題を教えてくれたり、一緒に考えてくれたりして、こんな友だちをもって良かったなと心の底から思いました。なので、私も友だちが困っている時などに気づいて行動できるようにしたいです。

中3

▽体育のリレーの時の話です。アンカーの子が走っている時に、走り終わった子は毎回応援しています。この時に、すごいなと思うことがあります。それは、自分と違うチームの子のことも応援しているからです。全員が走り終わった時には「お疲れ様」と声をかけ合ったり、順位が良くても悪くても全員が笑顔でいたりすることがとても良いと思います。これからの生活中でも、クラスの子たちと励まし合っていけたらいいです。

中1



中1



▽僕は、ほこりアレルギーを持っています。ある時、友だちが、落ちた雑巾を僕のほうきを持つ所に引っかけて上に飛ばして遊んでいました。その時、僕は、特に気にしていませんでしたが、終わった後に雑巾が触れた所を友だち自身の服でしきりに拭いていました。僕が「何やってるの？」と聞くと「えっお前アレルギーだから」と言って丁寧に拭いてくれました。じゃあ、初めから遊ばなきゃ良かったと思う人もいるかもしれませんが、普段とても自由な人が、こんなに細かいことまで仲間のことを思う一面があると知れたので、とてもうれしかったです。

中2

▽体育の時間、マット運動の準備をしていた時でした。倉庫のとびらとマットの台車に僕の左足が挟まれて痛くて動けませんでした。結果的に傷が浅かったので大丈夫でしたが、挟まれた瞬間は、自分の足はどうなってしまうのだろうという不安と恐怖でいっぱいでした。座り込んで立ち上がることもできなかった僕に手を差し伸べてくれた友だちがいました。彼らは、授業よりも僕を優先してくれたのです。「ただ仲が良い」それだけで、できるような行動ではないと思います。とっさの判断、仲間を大切にする友だちをもっている僕は幸せ者です。

中3

▽学校での休み時間に、濃厚接触者になってしまった友だちの話が上がりました。みんな、コロナのことは恐がっていたけれど、その友だちのことを心から心配していたので、僕は少しい気持ちになりました。

中2

▽私は、友だちに誕生日プレゼントをもらいました。中にはシャーペンと私の好物のシミチョココーンが入っていました。「シミチョココーンを入れなくていいよ」と言っていたのに、入れてくれてうれしくて心がほっこりしました。そして普段から手紙も書かないその子が「Happy birthday あつてるかな？」という紙を入れてくれました。すごくかわいいなと思いました。いつも仲良くしてくれるツンデレな友だちをこれからも大事にしていきたいと思います。

中2



中2

▽私は「ありがとう」と言うのは当たり前のことだけど、当たり前すぎて時に忘れてしまうことだと考えていました。いつも配りものをする時、毎日のことなので、お礼を言わない人がいても仕方ないことなのかなと思っていました。ですが、どんな時でも、絶対にお礼を言ってくれる人がクラスに二人だけいます。遠くにいる時も「ありがとうございます！」と振り向いてお礼を言ってくれることもありました。単純かもしれませんが、「配ってよかった」とうれしくなります。二人の当たり前のことを当たり前にできる姿にいつも格好良いと思っていました。自分もどんな人に対しても、お礼を言うべき時には必ず「ありがとう」の言葉を大切にしようと思っていました。今でも二人は人としてすごく尊敬しています。

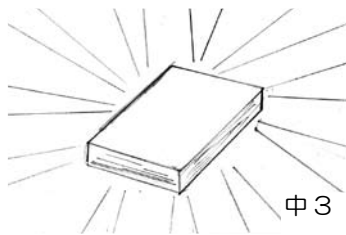
中2

▽私の通っている習い事でちよつといいことがありました。ある日、習い事が終わって帰ろうとしたら、Nちゃんが「気をつけて帰ってね」と言ってくれました。そんなに大したことではないけれど、帰る距離が他の人よりも少し長い私にとってはとてもうれしかったです。それから、私も帰り道が長い子には「気をつけてね」と言うようになりました。そんな一言で温かくなれるということを感じることができました。

中2

▽あれは、前に本屋に行った時のこと。その日は、僕の欲しがっていた漫画の発売日でした。僕は、その本が欲しくて朝早くに店に行き、本を探しました。しかし、いくら探しても目当ての漫画がありませんでした。店員さんに、その漫画がどこにあるか聞きましたが、その漫画はすべて売り切れてしまっていたのです。僕は、とてもこの日を楽しみにしていたので、がっかりしました。諦めて帰ろうとしたその時、天使が舞い降りたのです。その天使は、かつて同じテニスクラブに通っていた仲の良い友だちでした。彼に、事情を話すと、彼は、僕の目当ての漫画をじぶんのバックから出しました。何と、彼はその漫画を持っていたのです。そして、彼はこう言いました。「今から、僕の家で、この漫画を読みましょう」と。お言葉に甘えて、僕は、彼の家と一緒に漫画を読みました。彼と一緒に読んだ漫画は、今まで読んできた漫画の中で一番おもしろく感じました。

中3



中3

## ☆部活・クラブ仲間とのきずな

▽僕は野球をやっていました。最後の大会は、敗退で終わったけど、3年間、このチームメイトだからがんばれたんだなと思いました。全力を出し切って、同級生の5人と共に闘い抜くことができました。悔いがないように楽しんでプレーすることができたので良かったです。このメンバーで野球ができることはもうないけれど、思い出になると思います。今まで一緒にプレーしてくれてありがとう。

中3

▽僕は、野球クラブに入っています。ここでは、大事なピッチャーを任されました。そして、試合の日、良いピッチングができませんでした。少し落ち込んでしまっただけで、気持ちが下がったままイニングを終えると、メンバーが「ナイスピッチ」と声をかけてくれました。とてもうれしくて、その次のイニングでは良い球が投げられました。

中2

▽私は、ソフトボールをやっていました。中体連の2週間前から毎日夕方、お母さんに頼んで砂のボールを投げてもらい打っていました。雨が少し降っても協力してもらっていました。東濃大会の決勝では、練習の成果が出て、2ランホームランが打てました。お母さんもお父さんも喜んでくれて、今までの恩返しできました。私のために協力してくれて感謝しかありません。

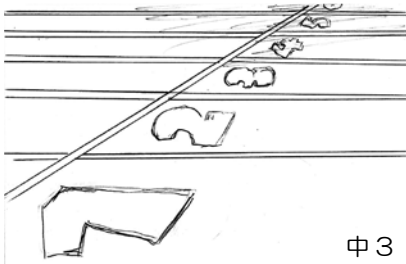
中3

▽僕は、陸上クラブに入っている。今日もいつもの土岐の練習場所で、クラブの仲間とアップを始めていた時、※プロアーを持つたおじさんたちが練習場に入ってきた。何やら連日続いた雨や風の影響で飛んできた小石を掃除するみたいだった。おじさんたちが、練習するみんなのために掃除してくれた優しさが僕にはうれしかった。よく考えると、このおじさんたち以外でも練習をする中で支えてくれる人たちはたくさんいる。クラブのコーチや先輩方、親など…。これからは、そんな支えてくれる人たちに感謝して練習をしていきたい。また、たびたび自分の口から、お礼を言えるようにしたいと思った。 ※送風機

中2

▽私は、3年間、陸上をやっています。野球やバレー、バスケのようにチーム競技ではなく個人競技でも合同練習をします。それに、大会の回数が多いので、他中との関りが多いのが陸上競技です。なので、友だちがたくさんできます。その中でも、私とタイムがほぼ同じくらいのEちゃんという子がいます。普段は仲が良いけれど、大会になるとお互い負けたくありません。「今回は勝つ!」「負けたくない!」と走る前はバチバチだけれど、走り終わり順位がつくと、負けた方は「おめでとう!」勝った方は「ありがとう」と必ず言い合います。負けたからといって決して態度を変えず、素直に喜びあえる関係をこれからも大切にしていきたいです。

中3



▽僕は、剣道をしています。僕の同年代にはすごく強い選手がいて、とても尊敬していました。中体連の東濃大会で僕は、その人と対戦することができて、うれしいのと同時にとても緊張しました。結果は一本とったものの二本負けで悔しかったですが、新しい目標もできました。後日、その強い選手と同じ道場に通っている先輩が、僕に「〇〇(強い選手)がおまえのこと強いつて言ってたよ」と教えてくれてとてもうれしくなりました。これからは、その人に勝てるように頑張りたいです。

中3

▽私は、テニスクラブに入っています。ある日、違う学校と合同練習がありました。相手コーチKさんは、私の父と同じ年で仲が良く、私にもよく話しかけてくれます。最近、コロナがあり、あまり練習ができなくて体がなまり、うまく打つことができませんでした。だから、合同練習の時も、上手く打てず、何で！って思っていました。その時、Kさんからアドバイスをもらいましたが、どれだけ打ってもうまく打てないまま腹が立ってきました。その帰り、母から「今日、全然打ててなかったじゃん」と言われ、イライラしていたら「でも、アドバイスをもらえただけありがたいと思いなさい。ちゃんと見てくださってるんだから」と言われ、とても失礼なことを思ってしまったと思いました。これからの活動で、どうしてもよくなるように人からもらったアドバイスを大切に過ごしていきたいです。

中2

▽私は、中学1年生の時に友だちに誘われてテニス部に入りました。その時は、まだ初心者だったので、うまく相手の方に入ることが少なかったです。でも、上手くできた時に仲間が「ナイス！」と言ってくれます。「ナイス！」という言葉で次も頑張ろうという気持ちになり、だんだんと上達していきます。私は、今、2年生で、中1から始める子もたくさんいるので、私も仲間と一緒に「ナイス！」を言いたいと思いました。

中2



中2

▽私は、合唱団に入っています。ダンスと歌などを主にやっているけれど、周りの子の歌が上手すぎて自分の歌に自信がなく小さな声で歌っています。でも、中3になって、小さい子のクラスを教える側になり、歌いながら教えずにはいけません。もうヘタでもいいから大きな声で歌って教えようと思いました。レッスンが終わった後、辛いなと思っていると、ピアノを弾いてくれる先生が「教え方も上手かったし歌も上手かったよ」と言ってくれました。とってもうれしかったです。だから、少しだけ自信をもって歌えるようになりました。自分も、人をあまり褒めることは少ないけれど、普段のあいさつや何かしてもらった時の感謝などをしっかりやっていきたいです。そして、もし、自分がすごいなと思った子には、先生に褒めてもらったように、自分も褒めてあげたいです。

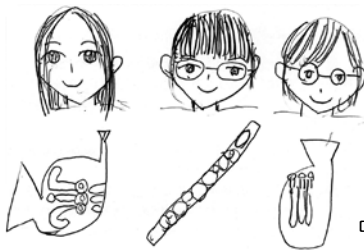
中3



▽私は、ダンスをやっています。1年くらい前に本格的にダンススクールに入りました。そこには、同じ学校の先輩がいました。先輩はいつも私を練習に呼んでくれたり、細かいところまでダンスを教えてくれたりと仲良くしてもらっています。私は、先輩にステップを教えてもらい、中級を受けることにしました。いざ、受けるとなると、とても緊張しましたが「頑張つて」と声をかけてくれたので頑張れました。結果は受かり、今、中級でダンスを受けています。先輩は、とても喜んでくれてうれしかったし、ダンスを細かいところまで教えてくれた先輩に感謝です。これからもよろしくお願いします。

中2

▽私は吹奏楽部です。今、中学3年生なので、引退が近づいていました。8月後半に定期演奏会の予定でした。夏休み中は、平日も休日も塾と並行してクラブにうちこんでいましたが、コロナで演奏会はなくなりまして。今まで休みたい気持ちを押さえて楽器を練習してきましたが、すべて水の泡となりました。悔しくて悲しくてどうしようもない感情でした。何もできないまま引退だと思つたら、一筋の希望が生まれました。顧問のY先生、保護者会長の親さん方により無観客で曲数も少なくなりましたが、9月初めにできることになったのです。とてもうれしかったし、精一杯頑張りたいと思いました。大人の方々の応援にとても心が温かくなりました。中3



中3

▽私は、吹奏楽部に入っています。私が、足をケガして楽器を持ち上げられない時期がありました。その時に、同じパートの先輩、友だち、母、先生など、いろいろな人が持つのを手伝ってくれました。私がか言わなくても自然に手伝ってくれるみんなにとっても感謝しています。次は自分みんなのために動けるようにしたいです。

中3



中3

▽私は、バレーボールをしています。練習内容はキツくてやめたいと思っただことが何度もあるけれど、7年続けられたのは、優しい先輩と仲の良い同級生、私たちのためにいつも怒ってくれるコーチや、お弁当も配車もしてくれる母など、恵まれた環境のおかげだと思います。コーチに怒られても、すぐに励ましてくれた先輩にもたくさん助けてもらいました。同級生といると本当に楽しいし、苦しい時も辛い時も一緒に頑張ることができています。コーチは、いつもニコニコしていてよく笑う方です。でも、ミスをしたらチームのために私のために怒ってくれます。心も体も強くなれました。母には感謝でいっぱいです。せつかくの土日もあるのですが朝早く起きてお弁当を作ってくれます。本当はもっと休みたいはずなのに嫌な顔一つしないで準備をしてくれます。周りの力があるからこそ、バレーを楽しんでいることを実感しました。

中2



中2

▽私は、今年、中学3年生。バレーボールのキャプテンになりました。いざまとめる側になると、どうして良いかわからず、上手くいかなことが多かったです。その状態が何週間か続いた時、卒業した元バレー部の先輩が練習を見に来てくれました。私は、その先輩に悩みを相談しました。先輩は親身になって私の話を聞いてアドバイスを下さいました。「一人で抱え込まなくていい」「周りを頼ってみて」考えてみれば、すごく簡単なことですが、その時の私は、心が救われたように感じました。このことがなければ、私は、今でも悩み続けていたのかもしれない。私は、その先輩に心から感謝を伝えたいと思っています。

中3

▽僕が部活の最後の大会に負けてしまい、落ち込んでいる時に、駅で同じ学校の吹奏楽部が演奏をしていました。演奏を聴いていると落ち込んでいた気持ちを切り替えて別のことを頑張ろうという気持ちになりました。同級生が演奏していた姿は、とても輝いていて、今でもその演奏の迫力は忘れません。僕もこれから、人に元気を与えられる行動をしたいと思いました。

中3

▽僕たちの監督は、少し怖いです。怒られた時は元気をなくしてしまうのですが、チームメイトが励ましてくれて元気が出ました。監督は、練習が終わった後は、笑顔で優しく話してくれます。何だかんだで愛されているんだと感じました。僕も、キャプテンとしてみんなを励まして県ベスト8を達成できるようにしたいです。

中2

▽私が、とある大会に出た時の話です。大会2日前、最後のリハーサルを終えた時、担任の先生がある動画を見せてくれました。それは、1・2年生の時に、生徒会や担任としてお世話になった異動してしまった先生からの応援メッセージでした。大会当日には、担任の先生から、異動してしまった保健室の先生がカレンダーに私の大会の日を書き込んでくださっていると知りました。大会の結果は、入賞までに入ることができませんでした。けれど、異動しても応援してください。先生のいること、結果よりも努力や過程を見て褒めてくださる先生がいること、会場に居なくても応援メッセージを送ってくれる祖父母、そして、見守り支えてくれる家族がいること、に気づくことができました。コロナ禍でしたが、人と人との繋がりを実感できた最高の大会になりました。

中3

▽私は、クラブに入っていて、カギ当番なので、練習の時にいつもカギを開けています。カギ当番は、話し合いではなく、じゃんけんで決めたので、私はすごく嫌でした。みんなより早めに行かなければいけないし、好きでやっている訳ではないので「どうして私だけ」と思っていました。でも、ある日、少し遅くなってしまう、先生も仲間も来ていて「すみません」と言ったら「いつもありがとう」と声をかけてくれてうれしかったです。カギ当番は大変だけど、今まで頑張っただけで良かったと思っただけ、これからもみんなの役に立てるよう頑張りたいと思いました。

中3

▽私は、小学校2年生から珠算を習っています。1週間に4回ある珠算教室と家で練習を続けています。試験は毎回受けますが、目標の準5段はなかなか受かりません。とても悔しくてこの悔しさをばねに練習に取り組んでいます。中学3年生の4月、試験に挑みました。本番では落ち着いて練習の成果が出せたと思いました。その結果は合格！久しぶりに「合格」の文字を見た時、うれしさのあまりうれし泣きしました。この結果を珠算教室でお世話になっていている先生と、近くで寄り添ってくれた母に伝えたら、とても喜んでくれました。私はこの時、普段感じたことのない思いに包まれました。私の頑張りを認めて喜んでくれた二人を見て、とても温かい気持ちになりました。普段は恥ずかしさで感謝を伝えられなかったけれど、「いつもありがとう」と伝えることができました。感謝を伝えることの大切さと身近な人の温かさを学びました。

▽僕は、ゴルフをしています。両親の都合もあり、練習できる曜日、時間が決まっているため、同じ時間に練習している人とはよく交流があります。そんなある日、会話をしたことがある男性が僕に「半年前と比べると見違える程上手になっとな」と言われました。僕は、この言葉を聞いて「いつも見守られているんだなあ」と思い、心が温かくなりました。同時に「瑞浪市は温かい町だなあ」と思いました。



中3

中3

中3

## ＊地域の人のつながり

▽私の家の近所のお年寄りの方たちは、みんな元気で優しいです。ある日、家の近くを走っていると「今日も頑張るとるね〜頑張れ〜」と毎日外で畑仕事をしているおじさんが言ってくれました。本当にうれしかったです。また、いつも野菜をくれる耳の遠いおじいさんがいます。おじいさんは私を見つけると、手を振って手招きします。そのおじいさんは、看護師である私の母が働いている眼科の患者さんで、会ったら毎回、目の相談をします。この様子を見て、近所の関わりっていいなって改めて思いました。

中3

▽僕は、犬を飼っていて、一日に二回散歩をします。朝にする一回目の散歩の時に、おじいさん、おばあさんがすれちがう度に「にんじん食べるかい？」と言っているいろんな野菜を食べさせてくれます。そして時々「野菜が余ったで持っていきゃ〜」と言ってたくさん野菜をくれます。そのお陰で少し生活が支えられています。また、すれちがった人が、うちの犬をたくさんかまってくれます。エサをもらったり、水をくれたり、本当に助かります。ここは、思いやりがある素敵な町だなと改めて思いました。

中1



中1

▽私の両親は、仕事で帰ってくるのが17時半くらいです。なので、学校へ行く日は家の鍵を持っていつても家で待っています。休み明けの日、私は、カギを忘れてしまいました。家に着いて本を読んで家の前で待つことにしました。その時、通りかかった隣の家の人が「外じゃ暑いし家おいで」と声をかけてくれました。それだけでもうれしかったけど、家の中で話していると「洗濯干していたのを見かけたよ。えらいね」とも言ってくれました。近所の人が見守ってくれていて気遣ってもらえて、とても幸せなことだと思えました。

中3

▽学校の帰り道、近所のおばあちゃんが買い物をした荷物を持って杖をついて歩いていました。荷物は軽かったけれど、おばあちゃんには重かったみたいで「おばあちゃん、ただいま」と言いながらさりげなく持ってあげました。すると「おかえり。○○君は力持ちだね」と笑顔で言ってくれました。「いや〜僕なんか…」話が弾み、いつの間にかおばあちゃんの家に着きました。「ありがとう。気をつけて帰ってね」とおばあちゃんが荷物を片手に手をふってくれました。僕はおばあちゃんが大好き。「またね〜」と言ってもらえて心が温かくなりました。

中2

▽学校に行く時に、近所の畑のおじいさんが、何で知ったのかはわからないけれど、僕が大会で入賞したことを知り、わざわざ僕の所に来て「大会で入賞するなんてすごいじゃないか〜」と言ってくれました。この言葉で、これからも頑張らないかと思いつつながら、学校に行きました。中2

▽近所のおばさんが、私たち家族にスイカをくれました。そのスイカは、おばさんが畑で育てた大切なスイカです。とても甘く、お店で買ったスイカのようにでした。おいしかったことをおばさんに伝えました。おばさんは「本当？うれしい。よかった」と言ってくれました。数日後、玄関の前にスイカが置いてありました。きつと、あのおばさんが置いてくれたのだと思います。そのスイカの味は、前と同じあまりいいスイカでした。おばさん、ありがとう。

中2

▽私が住んでいる地域のゴミ拾いをしている人を見ました。その人は、その日だけではなく、他の日もゴミ拾いをしたり、道路や広場の落ち葉を拾ったり掃除をしていました。地域の人のためにやっていることがすごいなと思いました。そういう人を受け継いで自分もやりたいです。そして、一番は、ポイ捨てをしないなど、自分で気をつけることも心がけたいです。

中1

▽近所のおばあさんは、私が小学生の時からいつも優しく声をかけてくれます。習い事の歌舞伎の公演がある時は、いつも見に来てくれて、たくさん褒めてくれます。本当にうれしくて次も「もっと頑張ろう」という気持ちになれます。物作りが好きなおばあさんは、いろいろな物を作ってくれます。いつも、優しくニコニコしているおばあさんと話しているととても心が温まります。今度は、私が、おばあさんに笑顔になってもらえる物をプレゼントしたいです。

中3



## なうれしい出来事

▽ある夏休みの日、僕は、とても暇だったので、自転車でどこかへ行くことにしました。せつかくなので、自分がどこまで行けるか試そうと行ったことのない道を走っていると、途中で山道に入って行きました。ずっと下り道だったのですが、どれだけ走っても道が終わらないので、不安感を覚えました。次第にのどが渴いてきたので水が欲しくなった僕は、偶然一つの家を見つけました。とりあえず水をもらおうとして近づくと、その家のおじさんから「どうしたの？」と話しかけられました。その後、おじさんは、僕に水ではなく、冷えたペットボトルのお茶を渡してくれた上に、山道の入口まで送ってくれました。少し道に迷って疲れていたもので、とてもありがたかったです。僕もこんな大人になりたいです。

中3

▽知り合いのお兄さんとご飯を食べに行った時のことです。コロナウイルスが少し落ち着いていた時に、飲食店に行ったのですが、やっぱり静かな食事になり、少し味気ないなと思っていました。食べ終わってお会計をした後、お兄さんは「美味しかったです。ありがとうございます」と言い、最後、店を出る時も「また来ます」と店員さんに言っただけで店を出ました。私は、ペコっとお辞儀をすることしかできず、あの時、私も言えば良かったと後悔しています。私もお兄さんのように「美味しかったです」と言えるようなカッコいい人になりたいです。

中3

▽ある日、おばあちゃんと一緒にスーパーで買い物をしている時、レジに進むと、人がたくさんいてちよつと待たないといけなくなりました。私は、待つのが嫌なので、少しだけ他の商品を見に行き帰ってくると、隣の店員さんがおばあちゃんに向けて「次のお客様どうぞ」と言っていました。少し耳が悪いため、届かなかったみたいです。急いで私が行こうとすると、後ろにいた高校生の男子が、おばあちゃんに優しく「こつち空いてますよ」と言い、更にカートまで運んでくれました。その行動に店員さんも私もほっこりしました。そのお兄さんのお陰で後ろがつかえず買い物を終えることができました。私もあのお兄さんのように自分から困っている人に声をかけたり、手伝ってあげたりできるようにになりたいです。

中3



中3

▽僕が去年の夏休みに近くのスーパーで買い物をしていると急に大雨が降ってきました。僕は、ちよつと傘を持っていたので良かったのですが、そばで小さな男の子が立って泣いていました。どうやらその子は傘を持たず、おつかいに来ていたようでした。そこで僕は、その子を家まで連れて行ってあげました。その子の家に着いた時には、もう僕はびしょぬれでした。自分の家に帰ると、母が「どうしたの?」と言ってきたので事情を話しました。すると母は「いい事をしたね」と褒めてくれました。その日の僕は、とても心が温かく、して良かったと思いました。

中3

▽夏休みに私の曾祖父が亡くなりました。その時、私は合宿に行っていて、その日の練習を終え、部屋で休んでいる時、先生が教えてくださいました。前の週に入院していて、それほど急に亡くなってしまおうとは思っていなかったので動揺しました。先生は、そんな私を見て「帰れるように考えるから元氣出せよ」と声をかけてくださいました。そして、次の日には、お通夜のために帰ることができました。学校までは、もう一人の顧問の方が、道中、気落ちしていた私を励ましながら送ってくださいました。この出来事を通して、私は、たくさんの人に助けていただいたことを実感しました。こういった助けに素直に感謝できる自分になりたいです。

中2

▽以前、地元から離れた所へライブを観に行った時のことです。私は、ライブのチケットのQRコードが入っているスマホが動かなくなっていました。このままだとライブ会場に入ることができず、遠くから来ているため知り合いもいなくて誰にも声をかけることができない状況でした。一人で焦っていると、近くにいたスタッフの方が声をかけてくださり、今の状況を話すと「大丈夫ですよ。ちょっと確認してみましよう」と言ってくださいました。スマホを他の方が直してくれている間も、おもしろい話や世間話をして気持ち落ち着かせてくれました。そうしている間にスマホも直り、会場に入ることができました。私のように困っている人に声をかけ、その上、素敵な対応をしてくれるあの時のスタッフさんの行動に心が温まりました。

中2

▽中学2年生の時、僕は学校を欠席しがちになってしまいました。早く学校に行けるよう心の中で「学校に行かなければならない」と自分を勇気づけていました。しかし、気持ちの調子により学校にはあまり行くことができませんでした。学校を欠席するたび「どうしていけないんだ」と自分を責めていました。自分を責めていると、さまざまな負の感情が浮かび上がって来て、とても複雑で苦しい感情に駆られます。そんな中、担任の先生と話すことにより、学校に行くことに対しての考え方が変わりました。電話で、担任の先生と話していると「無理しなくていいよ」と言ってくれました。その一言で僕は、ほっとしました。先生にそう言われる前までは「無理しなくていいよ」などの自分を楽にさせる言葉を心の中で考えませんでした。僕は、自分にも少しずつ負担をかけていたのだと気がつきました。学校に行くのは、もちろん大切だけど、自分で自分を必要以上に苦しめないように気を楽にして生活していると少しずつ学校に挑戦できるようになりました。今も、学校を休んでしまう日がありますが、その時は割り切り、自分を苦しめない程度で頑張っています。

中3

▽『ありがとう』には特別な力があるんだよ」と近くに住んでいるおばあさんに言われました。『ありがとう』は人を笑顔にさせたり、癒したり、感動させたりする力がある」本当にその通りだと思いました。コロナで「ありがとう」が減っている今、もっと「ありがとう」を言っていこうと思いました。

中3

▽新型コロナウイルスで、マスクが全然入手できない日が続きました。外国にいるおじさんが、マスクを三百枚くらい送ってくれました。外国にいるのに、日本の状況を見かねてマスクを送ってくれたので、とてもうれしかったです。

中2

▽休日の早朝に、僕が外を走っていると、一人のおじさんが軍手とビニール袋を持ってゴミ拾いをしていました。僕は、おじいさんに「ゴミ拾いを手伝わせてください」と言うと、おじいさんは「いいのかい。ありがとねー」と言ってくださり、僕は、気持ちが進みあがってビニール袋いっぱいゴミを拾いました。すると、おじいさんは「若い衆はすごいのだ」と笑いながら、僕の肩を叩きました。僕は、朝からうれしい気持ちになりました。

中2

▽昔のクラスメイトが「道路に落ちているゴミを拾って環境を良くしよう」と提案してくれました。この言葉を聞いた時、大変だと感じ「ゴミを拾いたくないなあ」と心の中で思っていました。でも、ゴミを拾って帰る多くのクラスメイトを見て、自分も「ゴミを拾わなきゃ」と思うようになり、毎日のようにゴミを拾っていた時があります。時々、母に「道に落ちたゴミなんて持つてこないで」と言われて悲しい気持ちになったこともありましたが、周りのクラスメイトたちや近所の人々が支えてくれたおかげで行動することは正しいことなのだと思われました。

中3

▽小学生の時、県外に行こうとして姉と祖母と電車で出かけていたら、途中の駅で、次ほどの電車に乗ればいいのかわからなくなってしまう。すると、近くにいた30代くらいの人が「お困りですか」と声をかけてくれて、乗る電車が来るまで一緒に待っていてくれた。おかげで正しい電車がわかったので、とても助かった。私も、いつかそういう人を見かけたら自分から声をかけて助けられるようにしたい。

中2

▽今年の夏休みにはがきが一枚届きました。そのはがきの送り主は、僕が通っていた小学校の先生からでした。その先生は、5年生の時の担任で、とてもいい先生でした。初めは、なぜ届いたか疑問に思いましたが、内容を見ると、中学校生活がどうか？や、勉強は大変か？など、心配しているような感じでした。僕は、学校生活も勉強も大丈夫ですが、先生が温かく接してくれていると考えると、うれしくなりました。

中2

▽ある日、運送会社の人が、僕の家の前どぶにタイヤがはまってしまい動けなくなっていました。父はその運送会社の人に助けを求められ手伝うことにしました。ですが、二人がかりでやってもなかなかタイヤを上げることができませんでした。すると近所の人が、そのことに気づいて4人がかりでやった結果、なんとかタイヤを上げることができました。僕は「やさしさはこういう事を言うのか」と思いました。

中2

▽私が、クラブの夜の練習に行っていた時の話です。家に帰ったら、玄関にダンボールが置いてありました。何だろうと思っていると、母が「中を見てごらん」と言ったので、そっと開けて見ると、小さな猫が入っていました。どうやら家の庭に迷い込んで来たみたいで、動きも遅く、弱っていると感じた母と妹は、逃げていく子猫を必死で保護したそうです。案の定、痩せているし、目もあまり開けられず、鼻も良くなく、とても調子が悪そうでした。次の日、病院に行ってみると、子猫は生後3カ月ほどでかぜをひいてしまっていることがわかりました。でも先生の対応も、他の職員の方もとても親切で、丁寧に手当てをしてくれたので、子猫も私たちもホッと安心できました。今では先生にもらった飲み薬を飲んですっかり元気になりました。毎日じゃれて遊んでいて、その姿はともかわいいです。大事に育てていこうと思います。

中2

▽私は、愛犬を外で飼っていますが、郵便局や宅配の人など、家族以外の人が家に来るといつも吠えます。思い切り吠えるため、だいたいの方は、少し距離を取ってインターホンを押したり、郵便物をポストに入れていきます。中には、ポストに入れるのが怖くて玄関先に置いていく人もいます。家族からしたら、怖がらせてしまい申し訳ない気持ちになります。でも、ある一人の宅配の人はいつも怖がらず、愛犬を撫でてくれます。この前は「おやつをあげてもいいですか」と言ってくださり、あげていました。愛犬もしっぽを振って喜んでいました。人と人だけでなく、動物と人との繋がりもあるのだと感じ、とても温かい気持ちになりました。

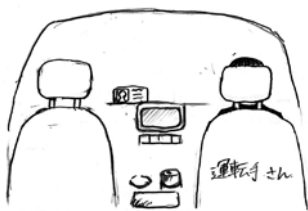
中3

▽私は、友だちと自転車で登下校をしています。ある日、帰る途中、だんだん空が暗くなってきたで大雨が降りました。でも、私も友だちも傘もカッパも持っていないませんでした。びしょびしょになってしまったので、あるスーパーカー（きなあ）で雨宿りをすることにしました。すると、店員さんが「自転車こち持つてきな」と言ってくれださり、屋根の下に置かせてくれました。しかも、びしょびしょだったので、タオルを一枚ずつ持つて来てくれださり「それあげるから持ち帰りなね」と言ってくれださりました。突然降ってきた雨で困っていた私たちを気遣ってくれて、最後まで見届けてくれた店員さんは本当に素敵だと思いました。そして、後日、私の母が店員さんに感謝を伝えると「全然！大丈夫だった？」と言ってくれださったそうで、涙ぐんだらしいです。それを聞いて私も心がギュツとなりました。

中1

▽私が初めて友だちとタクシーに乗った時のことです。その時は、部活帰りで歩き疲れてしまいました。それを見たタクシーの運転手さんは「若い子の頑張っている姿を見ると、私も勇気づけられるんだよ」と言いました。私は、その言葉を聞いて、自分の姿で勇気づけられる人がいるんだと思ったら、何だかうれしくなりました。なので、これからも頑張っていこう！と強く思いました。

中2



中2



▽先日、私が学校から帰る途中で、おばあさんに「駅はどうやって行けばいいかね？」と声をかけられました。私が指を指しながら、案内をすると、すぐ納得のいったような顔をして「ありがとう。良くわかったわ」と言ってくれました。さらに「家まで気をつけて帰ってね。一人では危ないから」と気遣いまでしてくださり、とても温かい気持ちになりました。そのおばあさんは、知らない方でしたが、知らない人同士でも助け合いをすることで、互いに温かい気持ちになるんだなと思いました。私は、これから困っている人を見つけたら、自分から「大丈夫ですか？」と声をかけたいです。

中2



▽少し前、駅周辺で祭りがありました。友だちと来ていて「焼き鳥を食べよう！」ということになりました。その時に、友だちが百円を排水溝に落としてしまいました。すると、店の人が、割りばしとガムテープを貸してくれました。それを使って私たちが一生懸命取ろうとしていると、焼き鳥を買いに来た男の人が、排水溝を取ろうとしてくれたり、何かいい方法を考えなくてくれる人もいました。それを見て私は、温かくなりました。結局、百円は取れなかったけど、店の人や周りの人の優しさを実感しました。私も困っている人がいたら声をかけたいです。

中2

▽いとこの家の近くの川が、氾濫し、いとこの家が浸水してしまいました。そのことを知り、私は、家族と一緒に家の中に入った泥などを片づけるのを手伝いに行ったのですが、祖父たちは、私たちが手伝いに来るたび「ありがとう」と言ってくれました。そこで、改めて困っている人、助けを求めている人を救うということが素晴らしいことだと感じました。

中2

▽私の家の近くで交通事故がありました。私は、とても驚きました。そこで、電話をしている人を見ました。おそらく、家族ではないと思いますが、必死でできることをやろうとしている姿に胸を打たれました。このような姿があつたからこそ、事故をした方々は、一命をとりとめました。私も、このような姿を見習い、誰かの役に立てるように頑張りたいです。

中2

▽私は、今年、受験生なので、夏休みに高校見学に行きました、ある高校で体験授業をした時、わからないところがあり、高校生の方に声をかけてみました。そうしたら、高校生の方が優しく教えてくださいました。優しくおしえてもらったこともうれしかったのですが、「高校は温かい場所」なんだと実感しました。そう感じた時、最初に持っていた不安や緊張などの気持ちは少なくなりました。これから受験に向けて焦りなどを感じることが多くなると思います、温かく優しい心を持つてがんばりたいです。

中3



中3

▽数年前、恵那市へ電車で行った時のことです。瑞浪駅で親を待っていると、ある外国の人から「明智に行くバスはどれですか？」と尋ねられました。僕は、まだ小学生だったので「ごめんなさい。わかりません」と答えました。すると、その方は、ままならない日本語で一生懸命に「ありがとうございます」と言っていました。答えがわからなかったにもかかわらず、日本語で言ってくれました。この時、僕は、どんな時でも、何かしてもらったら「ありがとうございます」と言いたいと思いました。

## 中2

▽僕の学校では、コロナ禍で行事があまりできなかったため、あるイベントをやることになりました。それは、合唱部が全校に歌を披露したり、生徒が学校内で写真を撮り、各々のクラスの写真を鑑賞し合うといったイベントでした。その中で、僕たちのクラスの男子は、二曲目が終わったところで「アンコール！アンコール！」と叫ぶ役、いわゆる「サクラ」を任せられました。予定通り「アンコール！アンコール！」と三曲目を期待するように全力で叫びました。少し恥ずかしかったですが、役に立てて良かったと思いつつ合唱を観ていました。曲名は「優しさに包まれたなら」です。いい曲だなと思いつつ先生の方を見ると「あなたも歌って」みたいな手の仕事をされて僕も歌うことになりました。なぜ、ここにいらっしゃると思うながら、最後まで合唱部という感じで歌うことができたと思います。終わった後、歌って気分が良くなったこともあり、いろんな意味で優しさに包まれました。

## 中3

# 一般編





春  
来  
い

▽蛍の明かりで地域に潤いを！

令和3年6月上旬、地域の真ん中を南から北へ土岐川に流れ込む万尺川の中流に、源氏ボタルの幻想的な淡い光が飛び交います。6月6日の午後8時頃から、今まで7年間飼って初めて乱舞すると表現するほど沢山の蛍が飛び交い始めました。近くに住む知人に「NHKで「ボタルが今日は沢山飛んでいる」と呼びかけますと、5分もしないうちに「どこですか？」と慌てた様子でやってきて、「ワーすごい、きれいだな」と言いながら「こんなに近くでこんなに沢山の源氏ボタルを見るのは初めてです。ボタル見るの10年、いや20年前ぶりかなーもつとかな」と、それはそれは懐かしそうに、少年時代の思い出話を満面の笑顔で話されました。近くのおばさんが、蛍がたくさん飛んでいるなどの会話を聞きつけ、脚が悪いのに杖を突いて夜道を来られたので、手を添えてあげますと「そんなことまでして頂き、素晴らしい蛍を見せて頂きありがたいことです」と懐中電気に照らされた顔は、素敵な笑顔です。9月上旬のある日には、家の近くで名前も知らない幼児園児と出会った際に、「ボタルのおじさんだー！」との声を聴き、とっても嬉しく思いました。

地域の皆さんに喜んでいただくことができ、約1年間かけて、蛍の幼虫を飼育し、万尺川に放流した甲斐があったなあと感じます。蛍の明かりのなか、幼かった子どもの頃の思い出を懐かしんだり、人と人とのやさしさや思いやりを感じたり、地域の潤いにつながったのなら幸せです。

70代

▽世界中が、昨年から今年にかけて「コロナ」「コロナ」で、昨年一年は、すべてにおいて余裕なき日々を過ごした。今年もまた「コロナ」の生活にもそれなりの日々に、今年3月ごろであったと思うが「新聞記事」なのか「テレビ」なのかハッキリと記憶にないが、ある本をぜひ読んでみたいとメモ用紙を常にサイフの中に入れて一ヶ月以上になるが、なかなか書店に行くことが出来ずにいた。4月25日の10時の開店を待つて早速その本のみ買い、家に帰れば待つている仕事。3時ごろ初めてカバンの中に「小銭入れ」の無いことに気づいた。勇気を出して書店に電話を…。

「茶色の小銭入れ」をお預かりしているとの返事に喜びと共に感謝の気持ちで早速いただきに…。大型店の日曜日の昼間とあつて大勢のお客様の中に、白髪の私に親切に対応をしてくださったお店の方に深くお礼を申し上げます。

追伸 十年程前に友人よりいただいた「ふくろうのお守」2センチにも足りない程の小さな小さなお守りにも感謝

70代

▽去年の夏7月16日に、私の父が他界し、5日間程作業所をお休みしました。様々な手続きをして、葬式をしたりしてバタバタと過ぎていきましたが、休み明けで仕事へ行ったら、同じ作業所の仲間から「大丈夫ですか。落ち着きましたか」とさりげなく声をかけられ「ありがとう。少し落ち着きましたよ」と返事ができました。

仲間のひとことで、どれほど気持ちが救われたか…。今でも忘れられないひとこまです。40代

▽私たちは、地元の観音様の清掃・補修・管理を行っています。活動メンバーの多くは高齢者です。コロナによる自粛・移動制限・イベント中止などが長期化する中で、人や地域社会とのつながりが減り、生活不活発を背景とした高齢者の健康の二次被害が問題視されています。

この様な問題が地元の高齢者に生じないように、観音様保存会の会長は、十分なコロナ対策を実施した清掃活動を定期的に行っています。活動メンバーは、ソーシャルダンス・マスク・消毒・黙動を厳守しています。お互いの元気な顔が見えるだけで心が和みます。会長の努力に感謝しています。

50代

▽瑞浪市に引っ越してきた時、主人の実家に同居していましたが、近所の方々がとても温かく、親切にしてくださいました。子どもを保育園に送迎する時も、必ず声をかけてくださったり、知らない方でも車のナンバーの土地が違うのを見て声をかけてくださったりと、地域の方が良く声をかけてくださるのが温かいな〜というも感じています。当たり前のことが、なかなかしにくい世の中になってきていますが、こんな些細なことが心に残ったり、うれしかったりするものです。そんなことを気づかせてくれた瑞浪の方に日々、感謝して、私もそうなれるように生活していきたいです。

40代



▽私は、35歳の時に仕事上のストレスから鬱状態になり、心療内科で「発達障害」の診断を受けました。今は障がい者雇用で働いています。

発達障害はまだまだ世間の認知度が低く、見た目にはわからない事から「怠けている」と冷ややかな目で見られることもありました。その度に「私なんか社会に必要とされない人間なんだ」と思い、落ち込む日々でした。そんな時、ある人からこんな言葉をかけてもらいました。

「今まで、本当に辛かったね。頑張ってきたね。でも、出来ない事は出来ないでいいんだよ。無理してやらなくていいんだよ。」と…。涙が止まりませんでした。

それまでは、「出来ない事を努力して出来るようにならない」とばかり思っていました。しかし、発達障害者の場合、脳の機能が定型発達と違う為「思考のクセ」や「短期記憶の弱さ」があり、努力ではどうにもならない事があります。そういった特性は中々理解されず、叱責を受け、自己肯定感が下がり続ける事で精神を病んでしまう人が沢山います。その方は、障がいについて詳しいわけではありませんでしたが、ただただ、私の話を聞いてくれ、気持ちに寄り添ってくれました。今は、自分に何が出来ないのか、できるのかを明確にし、周りに助けを求めることが出来るようになりました。言葉は人の心を傷つけるナイフになる事もあれば、人の人生を変える光になる事もあるのだと思います。私も辛い経験をした分、いつか誰かの心の光になれるような、そんな人間でありたいと思います。

40代

▽新型コロナウイルス禍のここ数ヶ月の間、体の不調に加え、心までもが悲鳴をあげだし、何も手につかず、なんとか仕事に向かう日々でした。家事はもちろんのこと、大好きな庭仕事さえできない日々が続きました。毎日、毎日「これでいいの?」「私は何のためにいるの?」「そんなことを考える私…。そんな日々が続いた9月のある日、ふと庭に目が向き、草取りでもしてみるか」と草を取り始め、一時間くらいした頃、視界に“キラリ”と光るものが写りました。「何?」そこには半透明な物体がありました。手に取ってまじまじと見ると、それはなんとかまきりの脱け殻ではありませんか!思わず「ありがとうございます」「わが家の庭でおおきくなってくれてありがとうございます」そんな言葉が出ていました。58年生きてきて初めての出会いでした。うれしい!なんだかどつてもうれしくなつて友人らにうれしいのおすそ分けをしました。画像を送った先の友人からの返信に「草取りのごほうびだね♡」その言葉にますますうれしく倅せな気分になり、もやもやしていた思いが少しだけ消え心が潤い軽くなりました。

50代



▽コロナ禍で自治会の草刈が中止となつてしまいましたが、近所の公園を進んで草刈りされている方がみえました。ありがたいなと思いました。

〇代

▽ほんの少し雪が積もった朝のお話です。家の近くには中学校があるのですが、何気なく竹ぼうきで掃いていると、男子生徒さんに声をかけられました。

「おはようございます。歩き易くしてください、ありがとうございます」…と。

びっくりしました。朝の挨拶だけでなく、お礼まで丁寧に伝えてくださったのです。思春期ですし、コロナ禍でストレスも抱かえている中でなかなか出来ることではありません。その日は、清々しい一日を送ることが出来ました。どうもありがとう。

▽夏休みに入ってから、母親の私が体調を崩してしまったので、子どもに家の人と買い物に行ってもらいました。買うものは、紙に書いて持って行ってもらい、お金も渡しました。買い物をして帰ってきたら、買い物かごにはきちんと物が並べであり、小銭も上手に使っていました。割引の物をちゃんと買ってあって、小さなお母さんみたくいつも母親を見ているんだなあと、ちよつとほんわかした気持ちと少しずつしっかりしてきたんだなあという気持ちで大変助かりました。その後、夕食の手伝いを毎日してくれます。とても助かっています。これからもお手伝いよろしくね。頼りにしていますよ！

40代



50代

▽この一年間、何かいいことはないかと過ごしてきましたが、外出といっても病院くらいです。あとは、家の近くのほんの少しの散歩ぐらい。何も出会いはありませんでした。でも、一回ありました。

去年のいつだったか、病院の血液検査の待合でイスがいつぱいで私がすみっこで立っていたところへ、私より少し若い男の方が席を譲ってくださいました。それより、もっと若く元気そうに見える方がいらつしやるのに……。私は遠慮しましたが、結局、そこに座りました。少ししてその方が呼ばれて、検査が終わり、帰られる後ろ姿を見てびっくりしました。私と同じ「ヘルプマーク」を付けてみました。その時、「あーこの方も私と同じ身障者なんだ。だから、私のぶらさげているマークを見て、早速に立ち上がってくださいったのか。申し訳なかったなあ」と思い、ずっと丈夫そうな方ばかりの中で……。この人の心が、私にはよく見えて涙がこみ上げてきました。

80代

▽車で出かけた時の話です。

T字交差点に差しかかろうとした時、左へウインカーを出しました。右側に中学生くらいの男の子が立っていました。速度をゆるめ止まろうとすると、その子が右側を確認して安全を確かめてから「左へどうぞ」と手を振ってくれました。ほんの一瞬の出来事でしたが「ありがとう」と頭を下げてその場をあとにしました。心の中はほっこりあたたかい気持ちになり、目的地に向かいました。

60代

▽近くのデイサービスに通いはじめてそろそろ2年。80代、90代、そして今年一月、80才になったばかりの私と五人。この不自由な手足の私とは、比べられないほど達者で器用な方ばかり。うらやましいやら、情けないやら。週一回の今の私の何よりの楽しみ。その中の一人の方が、毎週庭で育てられたきれいなお花を持って来てくださいます。その方は、いつも自分自身も美しく咲かせてみえます。職員の方たちの優しい出迎えと、美しい花の飾られた中で楽しい一日が始まり、毎回、手作りのおやつも楽しみひとつ。そんな優しい職員の方たち、愉快的仲間、きれいな花との嬉しい一日を心にしまい、帰りの車の中で私の心は「どうか来週も来られますように」と祈っています。

80代

▽コロナ下、全国的に、飲食店や菓子店を応援する行政の施策がいろいろありました。

他市のあるお店で、プレゼント用の焼き菓子を求め、会計をしたところ、「応援策の一環で値引きができます。お店への応援メッセージを頂きますか？」と尋ねられました。

急なことで戸惑いながらも、このお店のシンプルな素材と実直な味が好ましく、お世話になった方に食べて頂きたくてこのお店を選んだのだった、と思い返し、その旨をメッセージカードに記入。メッセージを見たお店の方は、ふわーっと笑顔になられ、いつも以上に心のこもった接客をしていただいたように感じました。気持ちを言葉にして伝えることの大切さを実感したできごとです。

40代

▽要介護の主人の両親と同居していましたが、母が骨折で入院し、その後、施設に入所しました。入院中に父が亡くなりましたが、コロナ禍で病院からの一時帰宅ができなかったこともあり、母が気落ちすることやと思うと、その時は伝えませんでした。施設に入所して、その生活に慣れてきた頃に、主人が父の死を伝えました。その翌日、私が洗濯物の交換に行くと、母を玄関まで連れてきてもらい、ガラス越しでしたが、涙ながらに「世話かけたね。わしが面倒見なあかんに、あんたに苦労かけちゃったね。今までありがとう」と言ってくれました。父の世話は、大変なことでも多かったです。母のその言葉で胸がスーッと軽くなり、苦労が少し報われたように思います。とてもうれしかったです。言葉にするって大切だなと改めて思いました。

60代

▽いつものように犬の散歩をしていた時のお話です。丁寧に草取りをしてくださっている70代くらいの男性の姿を見かけました。後でその場を通らせていただく時に、お礼を伝えるつもりでしたが、その時には姿はなく、言いそびれてしまいました。後日、その方にお礼を伝えることができました。するとその方は「自分の身体のためにやっていることなんだから……。わざわざお礼を言ってもらって、こちらこそありがとう」と素敵な笑顔で言ってくれました。いつも、きれいな道を通らせていただいてありがとうという気持ちと、私もその方のような心の美しい人になりたいなあと思いました。

50代

▽地域に花がとても大好きなおばさんがいます。畑の一部を花畑にしているほどです。さまざま美しい花々で彩られ、まるでフラワーガーデンのようです。ある日、そこを通りかかった時、そのおばさんから声をかけられました。

「ねえ、ねえ、ちよつと聞いて。下校中の3〜4年生くらいの男の子だったと思うけど、その子が『この花きれいやねえ』と言ってくれたよ。花を見て美しいと感じる心をちゃんと持つているんだなあと感激しちゃった。家に帰ってからさつそく日記に書いといた。家族にも話したら『この地域の子はいい子たちばかりだから…』と言つとつたよ」とにこにこ顔で話してくださいました。この時のおばさんのご満悦な表情が今も思い浮かびます。私まで心が温まりました。

70代

▽私は、毎朝一時間ぐらい散歩をしています。四季折々の風景を見ることや、行き交う人との出会いも楽しみの一つです。

ある日、時々見かけるご夫婦がビニール袋を持って歩いてみえました。今日は荷物を持ちながら散歩かなと思いつつ見えていますと、道路の端に落ちているゴミを拾われました。少し行くとまた一つと。散歩しながらゴミ拾いをされているのです。軍手をはめて拾う準備を試してみようです。すごいなあ、なかなかできないなあと思えました。私も道路にゴミが落ちているのはよく見ます。でもきたないな、こんなところ誰が捨てていくのかなと思うだけでした。でも、少しでも見習いたいです。まずは、家の前で道路に落ちているゴミを拾おうと思います。

60代

▽休み明けや蒸し暑い日や梅雨時の朝、何となく気が重い時がありませんか。そんな状態で、仕事に向かうべく自動車を運転していると、小中学生の登校時刻と重なります。自宅から仕事場までに信号機のない横断歩道が数か所あります。信号機のない横断歩道を渡るために女子中学生が二人、自動車が止まってくれるのを待っていました。出勤を急ぐ自動車が多い中、私の一台前の自動車が二人に気づいて停車してくれました。女子中学生は、渡る前に止まってくれた運転手の顔を見て笑顔で一礼し、渡り終えてからも顔を見て深々と一礼をしていました。

我々運転手の立場からは、横断しようとする歩行者がいれば一時停車するのは、道路交通法の順守で当たり前行動です。

しかし、この女子中学生たちのような「相手の顔を見て笑顔で一礼」する姿を見たら、たとえ急いでいても法律の順守というような形ではなく、誰もが心から歩行者を優先しようという気持ちになるのではないのでしょうか。私自身も、晴れやかな気持ちで仕事に向かうことができました。

60代

▽連日、コロナ禍で近所の人ともあまり話をする機会がない中で、資源ゴミを回収場所へ持っていく途中、道路の向かい側で花の水やりをしてみえる人に、私は黙って通ることもできたのですが、「○○さん、こんにちは！」と声をかけました。後日「あの時に、心が沈んで落ちこんでいた時に、明るい声で声かけしてもらいすごく嬉しかった」と言われました。ご近所の何気ないあいさつを言うことで、お互いにあたたかい気持ちになりました。

60代



▽出かける楽しみ、会えるうれしさ

今、コロナでどこにも出かけられない中、定期的に地域サロンは続けてきました。昼から歩いて会場に行きます。Yさん宅の畑のさつまいもを使いました。いもを切る人：。「ちよつと大きいかもね」「いいよ、いいよ」「紫いもも一緒に入れよかね」「粉一袋150gだから、二袋で300g。小麦粉も同じでいいよね」「砂糖は新しいもだから、少し多く加えてよくかきまぜてね」などとそれぞれ皆さん手際よく、黄と紫の大きな鬼まんのでき上がり。8個に切つて今日のお茶菓子です。アツアツを口にする、おいしいこと。

久しぶりに出席の〇〇さんは、二両親の付き添いで病院へ通つたこと、Mさんは花オクラ持参。裏山にはなれサルがいると携帯写真を見る人。イノシシの話等。「白菜たれか欲しい人いない？」私は思わず「欲しい、欲しいです」と言つて手を挙げました。

この会は、何年も続いてきました。一緒に楽しい時間を過ごし、いつも笑顔と生きがいをもたらしています。早くマスクを取つてお話ができるようにと願います。

70代

▽買い物に行った時です。お店の前の駐車スペースに止まつていた車に、車イスステッカーが貼つてありました。買い物を終えて、店を出ると、その車に車イスの方が一人で乗り込もうとしていました。「手伝えることあるかな？」「声かけしたら迷惑かな？」と悩みましたが「何か手伝うことはありますか？」と聞いてみました。その方は、このコロナの中、マスクをしても分かる笑顔で「大丈夫です。ありがとう」と言つてくれました。私は何もしなかつたけれど、少しだけ何か出来た気がしました。

〇代

▽私の実家には自家用車がなかったので、よく電車を利用した。私は、5人兄弟の4番目。家族で出かける時に、私と妹を連れて行くのは母の役目だった。二人の幼子を連れられた母は大変そうに見えるのか、見知らぬ人からよく席を譲っていただいた。母はいつもお礼を言って私と妹を座らせていた。小学校6年生の時、一緒に座っていた父に言われて初めてお年寄りに席を譲った。それ以来、幼い頃の恩返しのためで、お年寄りや子連れの方にはよく席を譲ってきた。10年ほど前、幼い二人の娘を連れて電車に乗る機会があった。通路に立っているとOL風の女性が「この席どうぞ」と声をかけてくださった。すると隣の学生風の女性も「こちらもどうぞ」と席を立ててくださいました。お礼を言って娘たちを座らせながら、自分の子供の頃の光景がよみがえってきました。娘たちも今は中学生になった。なかなか電車で出かける機会もないが、今度は娘たちに席を譲る経験をさせてあげたいと思っている。

40代

▽ある日、スーパーで、子ども3人を連れて買い物をしていた時、知らないおばあさんから「3人連れて買い物大変やねえ」と声をかけられました。そのおばあさんから、男の子3人育てあげたというお話をいただいて「あんたもまだまだ大変やと思うけど、頑張りやーよ！」と励ましの言葉をいただき、さらに、見ず知らずの子どもにも100円ずつ「おかしでも買ってあげやあね」とお小遣いまでいただいています。毎日、無我夢中で子育て家事をしていて必死で生活をしていた時だったので、おばあさんの「頑張りやーよ」という言葉がとても心に染み渡り、あたたかい気持ちになりました。

30代

▽昨年、息子が小学校から大豆をもらってきた。息子はプランターにそれを植えて、毎朝小学校に行く前にせつせと水をやってた。枝豆はすくすくと成長し、やがて収穫する日がやってきた。実がしっかりと入っているものもあれば、細いものもある。息子は「おじいちゃんからもらったのは大きいものばかりだったの」と言う。先日、妻の実家から、家庭菜園で採れた枝豆が送られてきていたのだ。「おじいちゃんのところでは採れたのが大きいものばかりだったと思う？」と妻。「あ、そうか」と息子。送るために良いものを選びすぐっているおじいちゃん、おばあちゃんの姿が息子の頭に浮かんだようだった。枝豆の収穫を終えると、他の子どもたちも加わって選別作業が始まった。実のしつかり詰まった太いものは、ご近所や親戚に差し上げるもの、細いものや傷ついたものは自分たちが食べるもの、というふうに分けていた。近頃言われている「恩送り」というのはこういうことをいうのだろうか。

40代

▽花咲かおじさん

私の住んでいる町内で、3、4年前からたった一人である日も来る日も花を植えて、暑い日も寒い日も草取りをしたり、花の手入れをしておられる人がみえます。土地を提供してくださる人がみえて、川べりの空地を開墾しながら大花壇(4m×約20数m)にいろんな花を咲かせていて見事です。苗は、近所の人を持ち込んだり、町の花作りの方が届けてくださります。花は、4日坊主、マリーゴールド、グラジオラス、あやめ、夏水仙、アガパンサス、その他いろいろ。春には可愛いビオラの大群が圧巻でした。これからの季節には、ドーム菊、スプレー菊の美しい花々が花壇をいろどってくれることでしょう。

70代

▽実家のお墓掃除をしていると、通りがかりの女性に声をかけられました。「○○ちゃん、一人でお墓の掃除をしてすごいね。お父さんも喜んでみえるよ」と。その方は、母の友人で、私は幼い頃に数回会ったことがある程度の方でした。なんと40年ぶりの再会でありながら、私の名前を覚えていて声をかけてくれたのです。その方は、84才と高齢でありながら、月に一度、亡き旦那様のお墓参りに自宅から一人で歩いてみえるそうです。私のことを覚えていてくださったうれしさと、楽しいお話から、元気をいただき、掃除の疲れも吹き飛んだ出来事でした。

50代

▽義母の18才の時のドラマチックな話です。

明治生まれの義母とは、25年共に暮らし、いろんな話を聞かせてくれました。その中のひとつのエピソードです。母の姉は結婚して外地に住んでいました。20才で病気で亡くなり子ども二人が残されました。一人はまだ乳飲み児でした。姉の夫は困りはて、妹である母に切々と手紙を書き送りました。

“義をみてせざるは勇なきなり”

情にあつい母は決心しました。ただ一人外地に向けて海を渡りました。待っていたのは12才年上の義兄と二人の幼な児でした。米の粉をすって赤ん坊にあたえ、自分の着物をこわし、二人の子の着物を縫い必死に育て上げたのです。私の敬愛する若き日の母のエピソードです。

70代

▽小学1年生の娘がいます。ある時「学校へ行きたくない」と言いました。ちゃんと理由はありました。私は「じゃあ、行かなくていいよ」と言いました。「学校へ行こうとすると、お腹が痛くなる」と言うようになりました。その日は、休んで近所を散歩したり、娘が好きなことをしたり、ゆったりと過ごしていました。そんなことが少し続いた時、近所のおじさんが気づいてくれました。話を聞いてくれ、励ましてくださいました。なぜか気が軽くなりました。そして、朝の登校時、毎日、集合場所まで一緒に行くことを決め、少しずつ学校へ行けるようになりました。その近所のおじさんが、朝の登校時、散歩をして出会うことがあると「いつてらっしゃい」と声をかけてくださいます。「今日は行けたんだね」とニツツとしてくれます。娘は恥ずかしくて「いつてきます」とは言えないですが、うなずいて頑張つて歩いていきます。変化に気づき、声をかけてくださる人や一緒に楽しくご飯を食べたり、好きなことを一緒に楽しめる人がいる大切さ。小さな体では抱えきれないものも、周りの人により乗り越えられるチャンスを与えてくれます。その近所のおじさんのおかげで、娘をサポートする勇気がわき、娘も私もまた強くなれた気がしました。今でも「ついてきて！」と言いますが、毎日、姿が見えなくなるまで手を振つて、頑張つて歩いて登校しています。

〇代

▽還暦を過ぎ古稀に近づいた夫婦のもとに先日、3才の孫が大きな荷物をかかえ「おめでと〜う」と家に入ってきました。思わぬ贈り物に一瞬戸惑いましたが、今日は『敬老の日』、改めて自分たちの年令を認識する日となりました。でも、とても嬉しい気持ちになりました。

60代

▽デイサービスの一日

外出の今日は、デイサービス。そわそわとスタッフ、友等に会おううれしさ。気遣いの朝茶にほっとありがとう。今日の始まり、会話もはずむ。「どうされた？」いつも会う人を見ない日は心配もする。スタッフ等と体操、脳トレ、トークもいい。知らず知らずにお腹が空きくる温かいご飯、汁物、副菜の地場産野菜に打つ舌つつみ。ゆつたりの午後は、おしゃべり、昼寝よし、本読み、手遊び、社会見学、お待ちかねの時のお茶菓子。バラエティー同揃いで笑顔もはずむ、さよならは恙なき日をありがとう。感謝と安堵、吾が家も楽し。

80代

▽可燃ゴミを出しに行つた時のこと。同じ班のとても元気な70代後半のおじさんとその日、初めて出すタイミングが一緒になりました。同じ班の方でも歳が少し離れているので、普段からあまりお話をする機会はありません。ゴミ出し用の黄色いネットの中に先に入れられて、後から私が入れやすいようにネットを持ち上げて待っていてくださったので、私は思わず「おはようございます。ありがとうございます」と笑顔いっぱいにあいさつをしました。そうしたら「今日も天気がええのー」と日焼けされた笑顔でかえりてくださったので「ほんとー！そうですねー」と青空を見上げながら答えました。朝から穏やかな青空と一緒に気持ちのいい一日の始まりとなつてとても嬉しかったです。以前、私が黄色のネットを持ち上げて待っていたことは何回もありましたが、反対になつたのは今回が初めての体験でした。

60代

▽車の運転中、横断歩道の手前で一時停止し、歩行者が渡るのを待つというのは当然のことなのですが、いつもながら、子どもが渡る時には、必ずといつていい程、右手を上げ、渡り終わった後に、こちらを向いて「ありがとうございます」と大きな声で言いながらお辞儀をしてくれます。そんな姿に毎回、ほっこりときせられます。自転車に乗った少年は、渡りきった後、わざわざ自転車を降り、お礼を言ってくれました。胸が熱くなりました。当たり前なことなのに、自分がしてもらったことで、感謝の気持ちを伝えられる。これによって「こちらの方こそありがとうございます」と思うことができます。そんな気持ちを我が子にも伝えていきたい。自分自身も忘れたくない。日々、どんな場面でもとても大事なことだと考えさせられました。

40代

▽散歩をしていると、信号のない横断歩道を渡ろうとしている人が立っていました。そこへ車がやってきて、横断歩道の手前で止まり、歩行者が運転手に向かって会釈をして渡っているのを見かけました。

以前ニュースを見ていたら、横断歩道で人が待っていたら止まらなくてはいけないのですが、人が待つについても通り過ぎ、途中まで渡りかけた人がいても、その近くを通り過ぎ、あわや事故という危険な映像を見て、地域性もあるようなことを言っていました。ニュースを見た後だけに、このような場面を見ることができほっとしました。

自分も心に余裕をもって、周りにやさしく行動ができるように心掛けようと思いました。

50代

▽パハリンピックを見ていて子ども(弟)が「何で背が小さいの？手はどうしたの？」と聞いてきました。母が、その人それぞれ理由があることを話すと「ふん」と少し考えていましたが、見た目が自分と違うことを「変だ」と言って笑ったのです。母が、再度話をしようとした時、兄が「皆違つて皆いいやろ！」と言います。「そっか♪」とすごく納得した様子で選手たちを見つめていました。さらに、兄が「自分(弟)だって吃音あるやんか。笑われたら嫌だろ」と。弟は「そうだった」と黙つて何か考えているようでした。

小学校の授業で「皆違つて皆いい」と、いろいろな人がいるけど、皆それぞれ素敵で、皆違つていいんだということを勉強してきました。その話の中で、吃音の話も取り上げていただき、吃音でもいい、そのままの話し方で良いことを全校の皆に伝えていただきました。兄の一言で、その時のことが思い出せ、改めて学ぶことができたのだと思いました。そして、自然に「皆違つて皆良いんだ」と言ってくれた兄に感動し、感謝の気持ちでいっぱいになりました。世の中の人皆が、違いや個性を認め合い、自分らしく伸び伸びと生きられるよう「皆違つて皆いい！」がもつともつと広がっていくといいなと強く思った出来事でした。

○代



小6



「ちょっといい話」を読んだ感想をお寄せいただきました

▽休日、「ぼくの書いたちょっといい話がこの本に載ったよ」と、中2の息子が笑顔で話しかけてきました。平日は、仕事のため両親ともに帰りが遅く、必要なことしか話さなくなった息子ですが、学校やクラブで感じた仲間の大切さについて、この本をきっかけに話すことができました。

いつの間にか心も成長し、人の思いやりに気づくことができるようになった息子を誇りに思ったひとときでした。ありがとうございました。

**中学2年生の母**

▽心ほのぼのしたり、子どもさんの素直な心に感動したりしています。孫(21才)も一緒に読んでいます。やさしい心は誰の心もあたためる最高のメッセージですね。

**70代**



中1

郵便はがき

郵便切手を貼って下さい。

509-6195

瑞浪市上平町1丁目1番地  
瑞浪市役所 生活安全課

『ちょっといい話』係 行き

×キリトリ

お名前： ( ) 歳
ご住所：〒
電話番号：
『ちょっといい話』の <b>感想</b> ・ <b>応募</b> (どちらかに○)
通信欄：

×キリトリ

### 読者のみなさまへ

このたびは『ちょっといい話11』を読んでくださって、ありがとうございます。上のはがきをご利用のうえ、ぜひ、ご感想をお聞かせください。みなさまからの『ちょっといい話』のご応募もお待ちしております。



# ちよつといい話 11

令和4年1月発行

瑞浪市・瑞浪市人権施策推進ネットワーク会議  
(瑞浪市 まちづくり推進部 生活安全課)

〒509-6195 瑞浪市上平町1-1  
TEL 0572-68-2111 FAX 0572-68-2240  
<https://www.city.mizunami.lg.jp/>

この冊子は岐阜県からの助成を受けています。